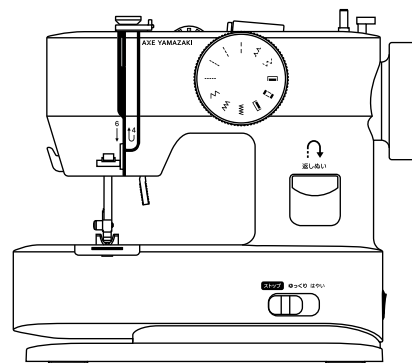
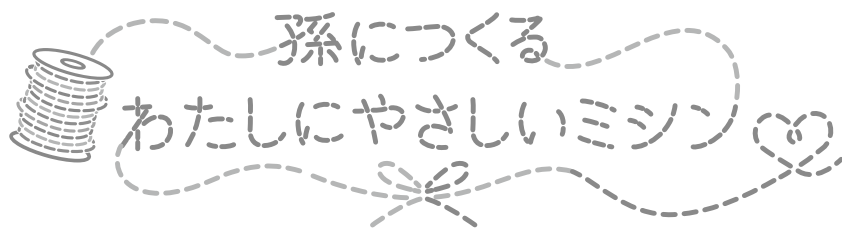


取扱説明書

型式：YS-10 シリーズ



もくじ

お買い上げいただきありがとうございます。

安全上のご注意	1～2	伸縮生地を縫う	24
取り扱いのお願い	2	糸調子の合わせかた	25～26
各部の名まえ	3～4	糸、針、生地の関係	26
付属品	4	返し縫い	27
持ち運びかた	4	フリーアーム	27
電源を入れる	5～6	厚地や段差を縫うときは	28～29
フットスイッチ	7	縫い方向の変えかた	29
付属品入れ	8	まつり縫い(裾上げ)	30
模様選択	9	ボタンホール縫い	31～33
スピード調節ツマミ	9	お手入れ	34～38
押え上げレバー	10	困ったときは	39～40
押えの取り外しかた・取り付けかた	10	仕様	40
押えホルダーの取り外しかた・取り付けかた	11	QRコードシール	41
ボビンの取り出しかた	11	純正部品のご案内	41
下糸の準備	12～14	修理サービス要領	42
上糸の準備	15～19	お問い合わせまたはご相談先	42
縫ってみる	20～23	保証書	終
ジグザグ縫い／縁かがり縫い	24		



警告

電気製品は安全のための注意事項を守らなければ、火災や人身事故になる場合がございます。この「取扱説明書」には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いを示しています。この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、この製品を安全にご使用ください。

また、お読みになった後はいつでも見るできるように、必ず保管してください。

安全上のご注意

ご使用の前に「取扱説明書」を必ずお読みになり、正しく安全にご使用ください。

この取扱説明書及び商品には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。

以下の表示を無視して誤った取り扱いをすることにより生じる内容を、次のように区分しています。

以下の内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

●このミシンは日本国内向け家庭用です。

For use in JAPAN only. 国外での使用及び職業用としてご使用になった場合の保証はできません。

●仕様及び外観は品質改善のため、予告なく変更することがあることをご了承ください。

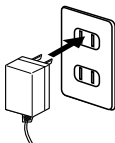
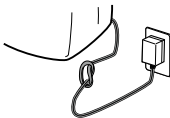
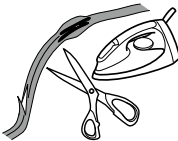
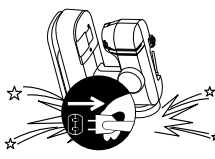
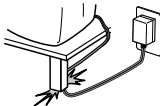
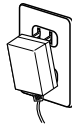
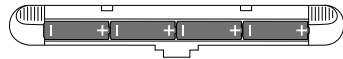
●取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。

●取扱説明書の内容を許可なく無断で複製をすることは禁じられておりますのでご了承ください。

 警告	この表示を無視して誤った使いかたを すると、人が死亡または重傷を 負う恐れがある内容を示しています。	 注意	この表示を無視して誤った使いかたを すると、人がケガをしたり財産に損害が 生じる恐れがある内容を示しています。
--	--	---	---

この説明書で使用している絵文字の意味は次の通りです。

危険性を促す記号	行為を「禁止」する記号	行為を「指示」する記号
   火災の原因になります 感電の危険性があります ケガの危険性があります	  禁止 分解禁止	  必ずすること 電源プラグを抜く

警告		死亡、火災、感電の恐れがあります。	
 火災・感電の原因となります。	一般家庭用電源 AC100V の電源以外では絶対に使用しないでください。 AC100V 50/60Hz 	 火災・感電の原因となります。 販売店・サービスセンターにご連絡ください。	ミシンの中に水や異物が入ったときは、電源を切り、AC アダプターを抜いてください。 
	電源コードを傷つけたり、折り曲げ、結び、ねじれ、加工はしないでください。 		発煙や異臭、異音などの異常が発生したら電源を切り、AC アダプターを抜いてください。 
	傷付いたり、溶けて線がむき出しになったコードを使わないでください。 *コードが傷付いた場合は販売店・サービスセンターにて純正部品をお買い求めください。 		落としたり正常に作動しないときは AC アダプターを抜いてください。 
	コードに机や椅子の脚など、重いものを載せないでください。 		AC アダプターをコンセント（家庭用電源）にしっかり差し込んでください。 
	延長コードや分岐コンセントを使用したタコ足配線はしないでください。 		付属の AC アダプターはこのミシン専用です。他の用途に使用したり、付属品以外の AC アダプターを使用しないでください。 
			ミシンの中に電池を長期間入れっぱなしにしないでください。電池同士で通電し腐食します。 

 注意    ケガや財産に損害が生じる恐れがあります。	
 	- 電源を切るときは、AC アダプターを持ってコンセントを抜き差ししてください。コードの断線や接触不良による感電の原因になります。 - ミシンの操作中はミシンから目を離さないでください。 - 交換した針を放置しないでください。 - お子様が使用するときや、お子様の近くで使用するときは特に安全に注意し、お子様から目を離さないでください。 - 針を交換するときは、AC アダプター及び電池を抜いてください。作業途中にミシンが動く恐れがありケガの原因になります。 - 屋外や直射日光のあたる場所、高温多湿な環境、寒い場所での使用は避けてください。部品の劣化や変形、正常に作動しないことがあります。
	- コードは巻き付けしないでください。コードの断線や接触不良による感電の原因になります。 - 濡れた手で AC アダプターを抜き差ししないでください。感電の原因になります。 - ミシンを使用しないときやミシンから離れたり使用を中断するときは AC アダプター及び電池を抜いてください。絶縁劣化、漏電などによる火災の原因になる恐れがあります。 - 不安定な場所に置かないでください。 - 動作中に、はずみ車・針・天びんに手を触れないでください。手や指が挟まる、針が刺さるなどケガの原因になります。 - 曲がった針は使わないでください。針が折れ、ケガの原因になります。 - すべり板を開けたままミシンを操作しないでください。 - 縫製中に生地を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。手や指が挟まる、針が刺さるなどケガの原因になります。
	- 電池を誤使用すると発熱・破裂・液漏れ・発火の恐れがあります。以下に注意してください。 1. 二次電池（充電式電池）またはマンガン電池は、絶対に使用しないでください。 2. 古い電池と新しい電池、いろいろな種類の電池を混ぜて使用しないでください。 3. +-(プラスマイナス)を正しくセットしてください。 4. 使用後は、必ず電源スイッチを切り、電池を外してください。 5. ショートさせたり充電・分解・加熱・火の中に入れたりしないでください。 6. 万一、電池から漏れた液が目に入ったときはすぐに大量の水で洗い、医師に相談してください。皮膚や服に付いたときは水で洗ってください。 7. 破棄するときは、自治体の廃棄物処理の指示に従ってください。

取り扱いのお願い

永くお使いいただくため、次のことを守ってください。

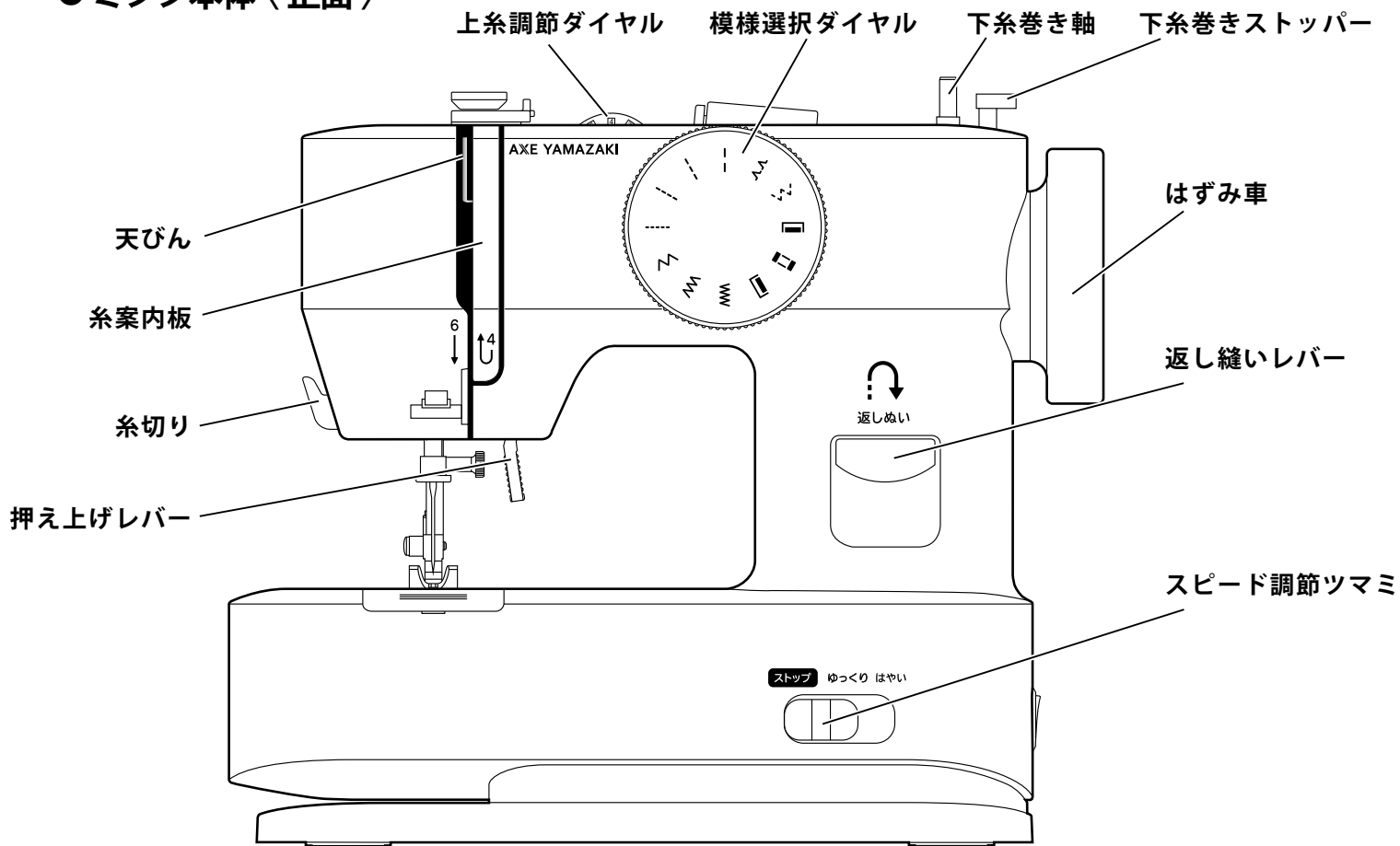
縫製以外や業務用、職業用の目的には、ご使用にならないでください。極度の部品摩耗や破損につながります。

 注意   ケガやミシンの故障が発生する恐れがあります。
--

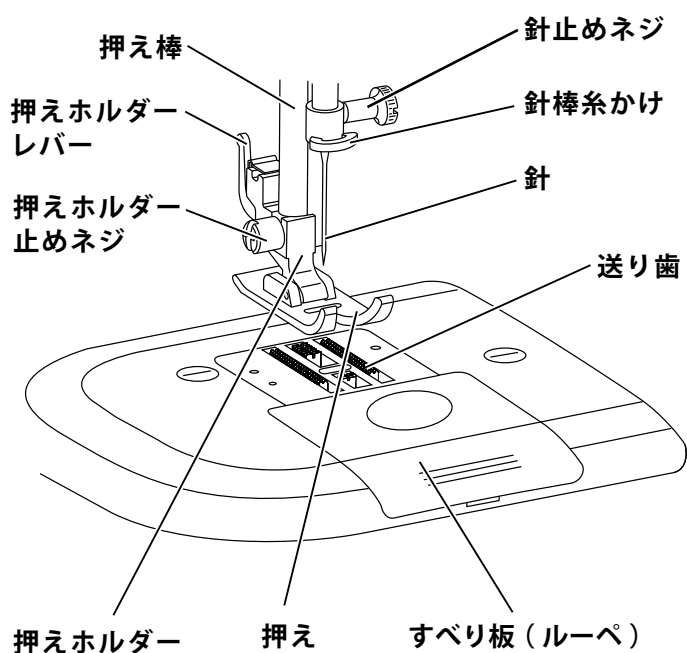
- 曲がった針を使わない。
曲がった針を使うと、次のようなケガや部品の損傷につながります。
・針穴に刺さらず、折れた針が飛び、ケガをする恐れがあります。・押えや針板に傷を付け、糸調子が合わなくなります。
- このミシンで縫えないもの。
次のものはこのミシンでは縫えません。針やモーターなどに過度の負担をかけ、故障の原因になるだけでなく、針折れなどの原因にもなります。
・木、プラスチック、金属などの板・ぬれた布、粗い網（漁網など）・はずみ車を手で回しても、針が刺さりにくい生地・極端な段差
- 保管時の結露（つゆつき）について。
寒いところから、暖かい室内に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋では、本体の表面や内部に結露（つゆつき）が起こることがあります。結露がなくなるまで、AC アダプターをコンセント（家庭用電源）に接続しないでください。そのままお使いになると感電や誤動作・故障の原因になります。
- 直射日光・熱気をさける。
直射日光が当たる場所や熱器具の近くには置かないでください。プラスチックのカバー部分や内部部品に変色・変形や部品劣化などの悪い影響を与えますのでご注意ください。
- 糸絡みのとき、糸・生地を引っ張らない、無理にはずみ車を回さない。
針や部品を破損します。
- ミシン表面のお手入れ。
プラスチック部分の汚れがひどいときは、中性洗剤をぬるま湯に薄め、布に浸してかたく絞り、乾いた布で仕上げてください。
※ ベンジン・シンナー・ワックスなどで拭かないでください。
- 説明書で指定された以外の分解・改造はしない。
ネジ類の締め忘れやゆるみにより、針折れや部品の破損につながります。
- 使用した後、上糸を外す。
糸をかけたまま収納すると、糸たて棒を破損します。上糸は外してください。
- 長期間ご使用にならないとき。
長期間ご使用にならないと、油の乾燥・固着などで機能に支障をきたす場合があります。時々、ミシンを動かしてください。油の固着を防ぐことができます。

各部の名まえ

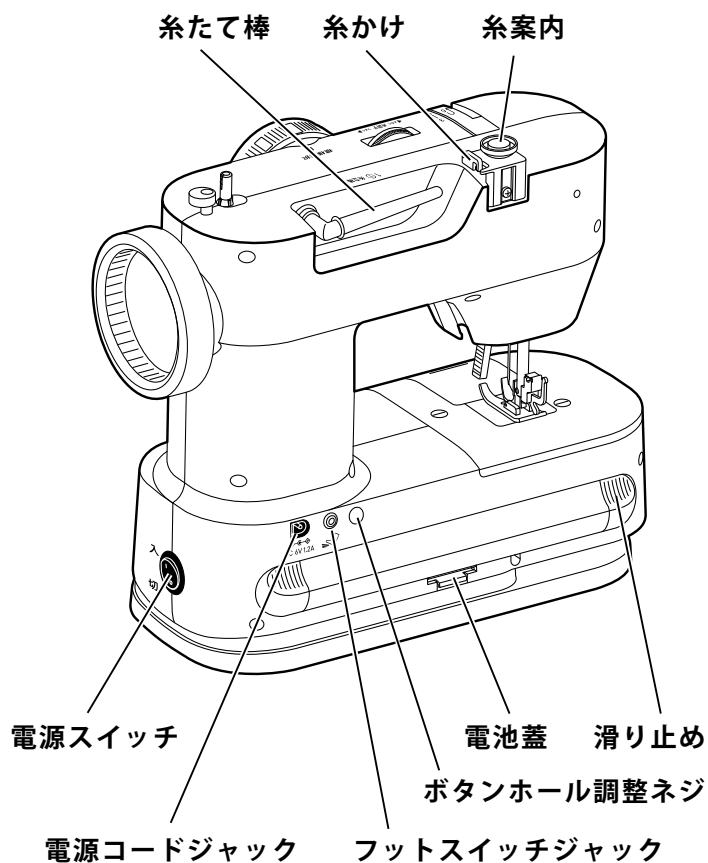
● ミシン本体〈正面〉



● 針の周辺



● ミシン本体〈背面〉



付属品

※ 必ず専用の付属品をご使用ください。

※ ボビンをお買い求めるときは家庭用プラスチックボビン (高さ 11.5mm×直径 20.5mm) とご指定ください。

※ 針をお買い求めるときは市販の家庭用ミシン針 (HA×1) をご指定ください。



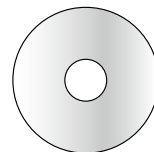
取扱説明書 (本書)



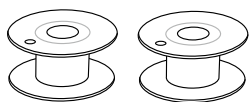
レシピ



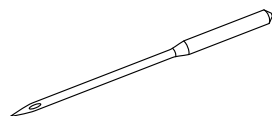
ミシンの困った!
解決 Book



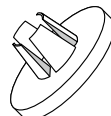
使いかた DVD



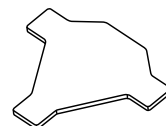
家庭用プラスチックボビン 2 個
(高さ 11.5mm×直径 20.5mm)



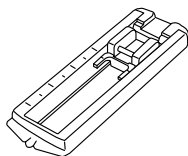
針 1 本 (HA×1#14)



糸こま押え



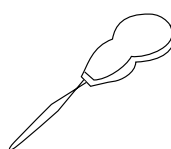
針板ドライバー
(針止めネジ/
押えホルダー止めネジ用)



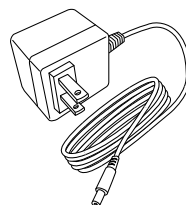
ボタンホール押え



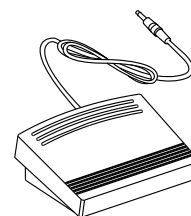
QR コードシール



糸通し器



AC アダプター
(出力:6.0V 1.2A)



フットスイッチ

持ち運びかた



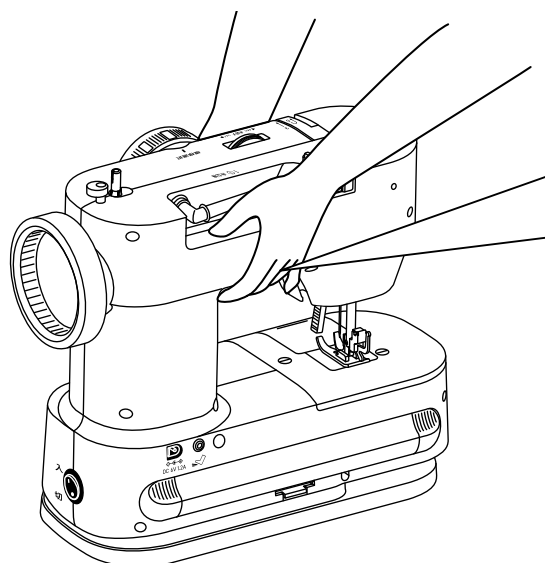
注意



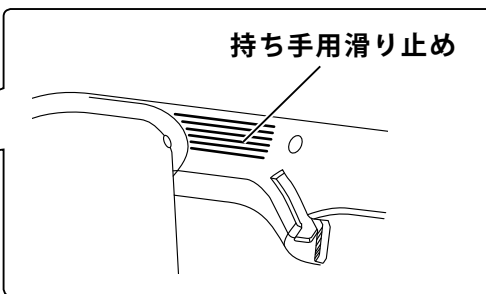
※ 下記の間違った持ち運びはしないでください。

ミシンが壊れたり、滑って落としケガをする恐れがあります。

- ・片手で持つ。 ・持ち手部以外の場所を持つ。
- ・持ち運ぶとき急激、不用意な動作をしない。



持ち手用滑り止め



※ ミシンを移動するときは、必ず両手で持ち、
移動させてください。

電源を入れる



警告



- ・電源コードはACアダプターを持って抜く。
コードのみを引っ張ると、ACアダプターのコード部分が破損し、火災、感電、機器故障の原因になります。



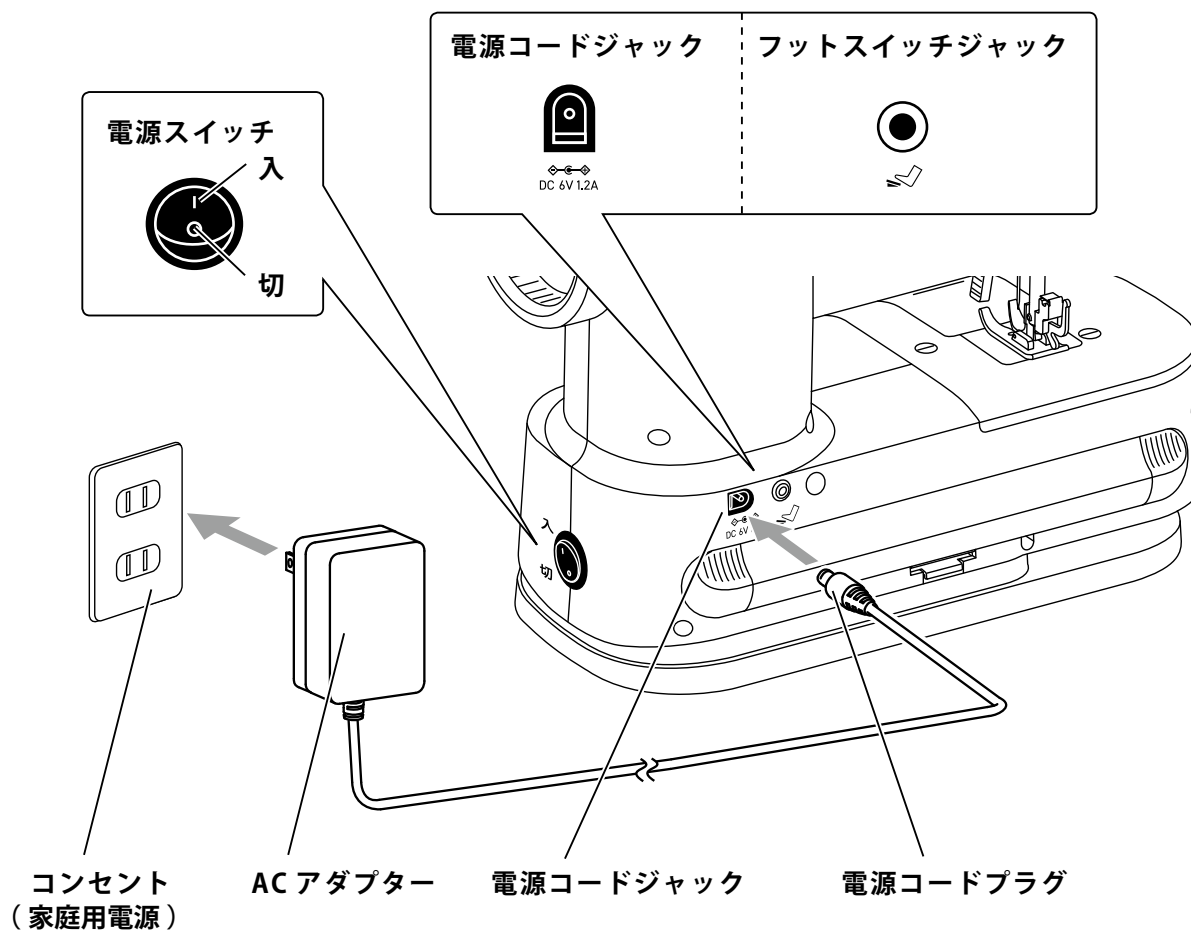
注意



- ・電源スイッチを『切』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。
- ・ACアダプターを使用ときは、
電池を必ず抜いてください。
- ・はずみ車や針周辺に手や物を置かない。
- ・周囲に物を置かない。
- ・水平なところにミシンを設置する。
- ・作業スペースを確保する。

●ACアダプター

<ミシン背面側>



- 【1】『電源スイッチ』を『0』側に押し、電源を切ります。
- 【2】『電源コードプラグ』を『電源コードジャック』に確実に差し込みます。
- 【3】『ACアダプター』を『コンセント (家庭用電源)』に、確実に差し込みます。
- 【4】『電源スイッチ』を『I』側に押し、電源を入れます。

※ ACアダプターを使用ときは、電池を必ず抜いてください。

●電池(単3形アルカリ電池×4本)



注意

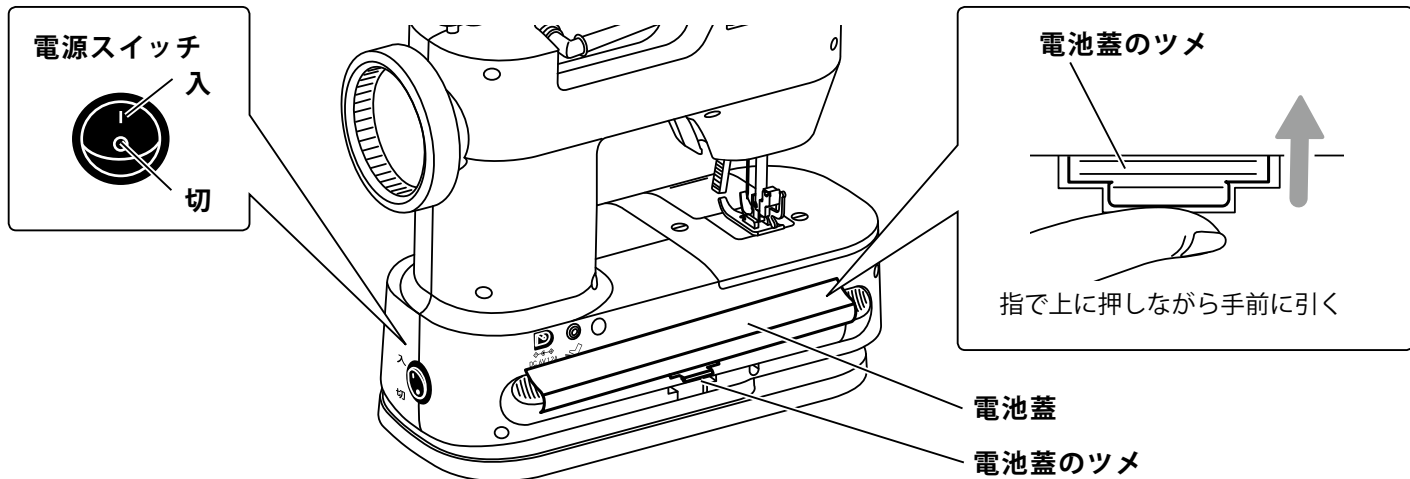


・電池を誤使用すると発熱・破裂・液漏れ・発火の恐れがあります。
以下に注意してください。

1. 二次電池(充電式電池)またはマンガン電池は、絶対に使用しないでください。
2. 古い電池と新しい電池、いろいろな種類の電池を混ぜて使用しないでください。
3. +-(プラスマイナス)を正しくセットしてください。
4. 使用後は、必ず電源スイッチを『切』にし、電池を外してください。
5. ショートさせたり充電・分解・加熱・火の中に入れたりしないでください。
6. 万一、電池から漏れた液が目に入ったときはすぐに大量の水で洗い、医師に相談してください。皮膚や服に付いたときは水で洗ってください。
7. 破棄するときは、自治体の廃棄物処理の指示に従ってください。

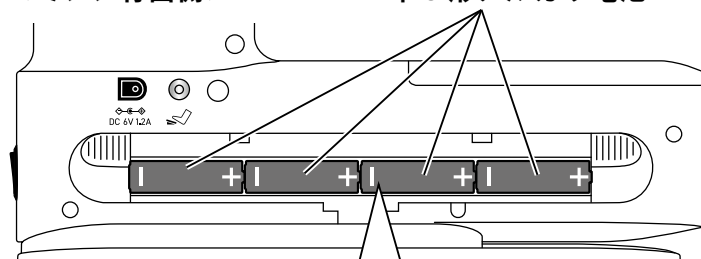
・電池を使用するときは、ACアダプターを必ず抜いてください。

<ミシン背面側>

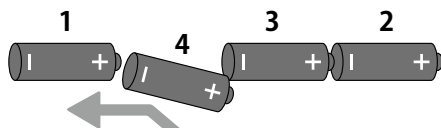


<ミシン背面側>

単3形アルカリ電池×4本



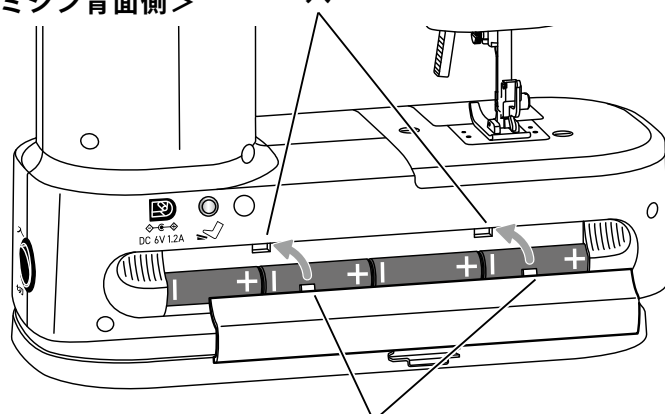
* 数字の順番に単3アルカリ電池を入れ、4番目はマイナス(－)側に押しながらいれます。



マイナス(－)側に押しながらいれる

<ミシン背面側>

穴



電池蓋の凸

【1】『電源スイッチ』を『0』側に押し、電源を切ります。

【2】ミシンの背面にある『電池蓋』を開きます。

【3】単3形アルカリ電池を4本図のようにセットします。



注意



電池の向きを間違えると、一部の電池が充電されることになり、液漏れや破裂の原因になります。

【4】電池蓋の凸をミシンの背面にある穴に差し込み、『電池蓋』を閉じます。

【5】『電源スイッチ』を『1』側に押し、電源を入れます。

単3形アルカリ電池使用
縫製可能持続時間の目安

デニム生地 2枚重ね
連続運転時 約2時間

※ 生地の種類や生地の重なり具合、
アルカリ電池の種類により
縫製可能持続時間には差があります。

フットスイッチ



警告



・電源コードはACアダプターを持って抜く。
コードのみを引っ張ると、ACアダプターのコード部分が破損し、火災、感電、機器故障の原因になります。



注意



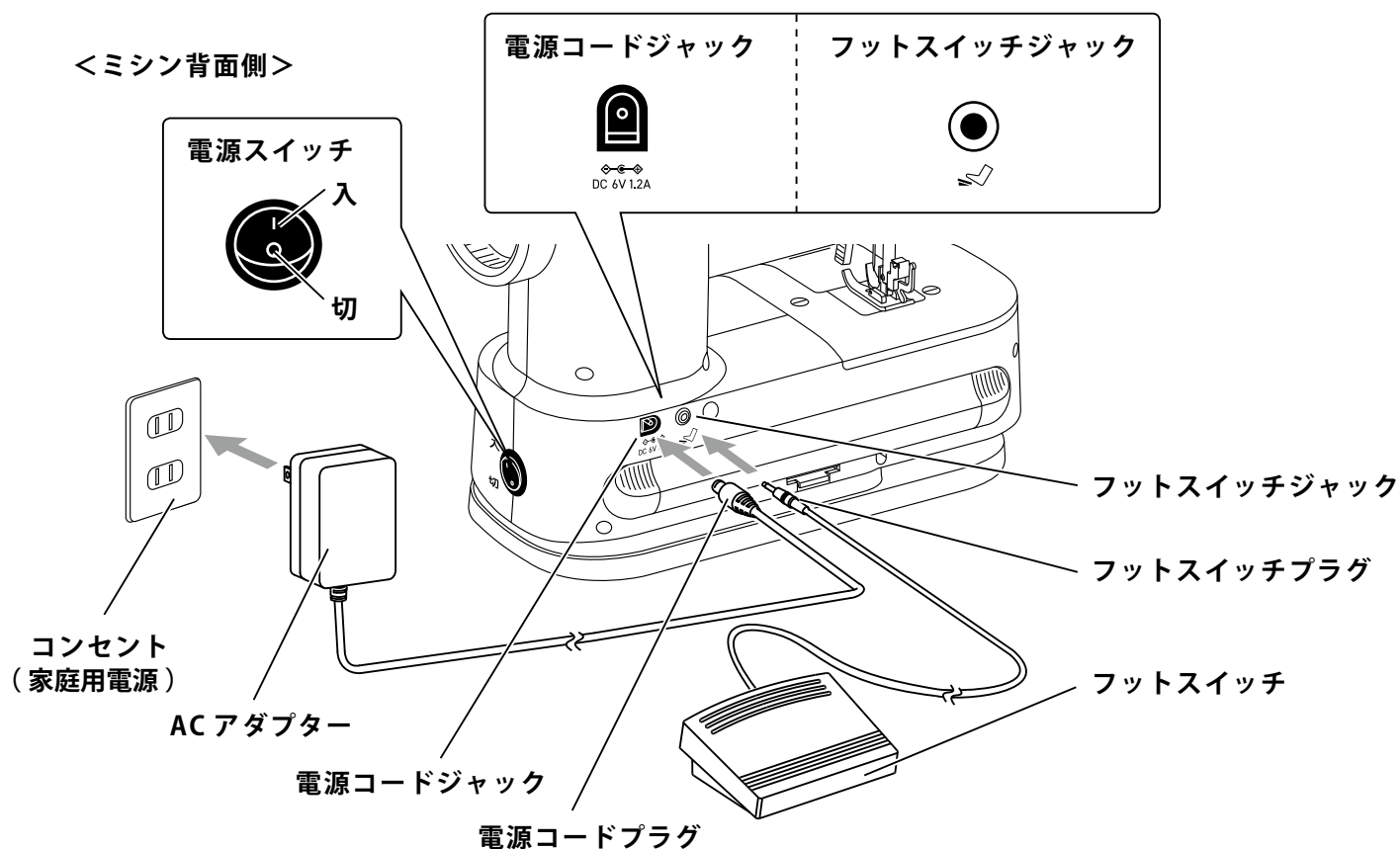
・電源スイッチを『切』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

・作業スペースを確保する。
・周囲に物を置かない。

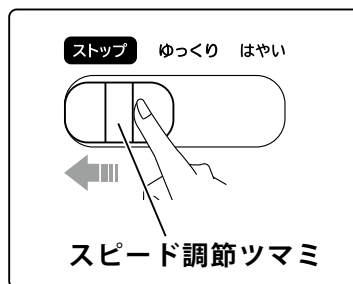


・はずみ車や針周辺に手や物を置かない。
・フットスイッチの上に物を置かない。
・水平なところにミシンを設置する。

<ミシン背面側>



- 【1】『電源スイッチ』を『0』側に押し、電源を切ります。
- 【2】『フットスイッチプラグ』を『フットスイッチジャック』に確実に差し込みます。
- 【3】『電源コードプラグ』を『電源コードジャック』に確実に差し込みます。
- 【4】『ACアダプター』を『コンセント (家庭用電源)』に確実に差し込みます。
- 【5】『電源スイッチ』を『I』側を押し、電源入れます。
- 【6】『スピード調節ツマミ』を『ストップ』にして、『フットスイッチ』で操作します。



●『フットスイッチ』でのミシンの動かし方・止めかた

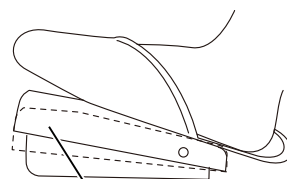
『フットスイッチ』を踏むと、ミシンが動き始めます。
また、踏むのをやめるとミシンは止まります。

- ゆっくり: 『フットスイッチ』を浅く踏みます。
- はやい: 『フットスイッチ』を深く踏みます。

※ 踏み込み加減によってスピードはゆっくり、はやいに切り替わります。

ゆっくり

はやい

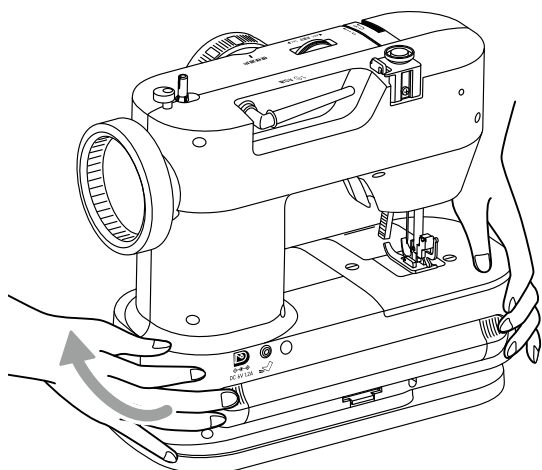


フットスイッチ

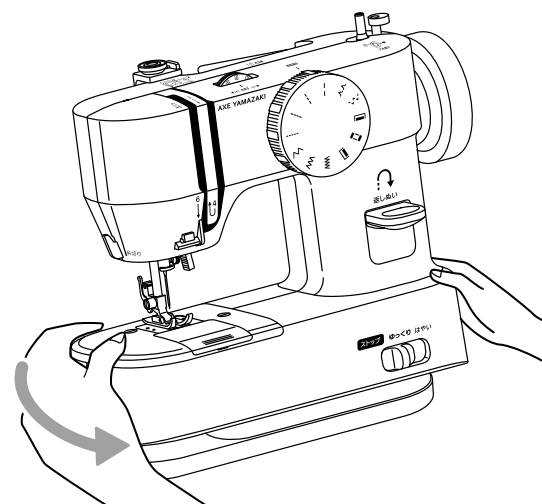
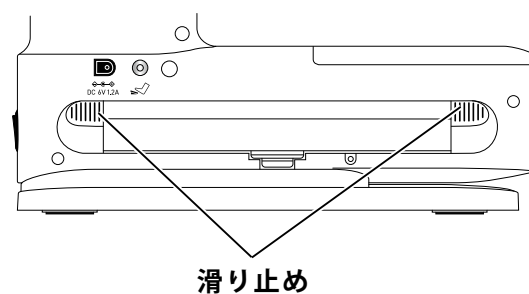
付属品入れ

ミシンに付属品を収納できます。

<ミシン背面側>

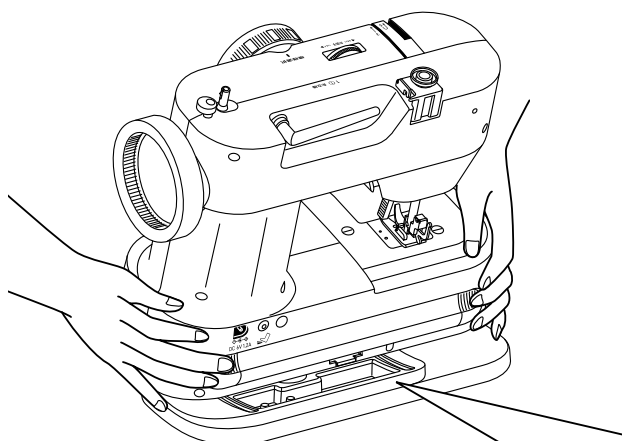


<ミシン背面側>



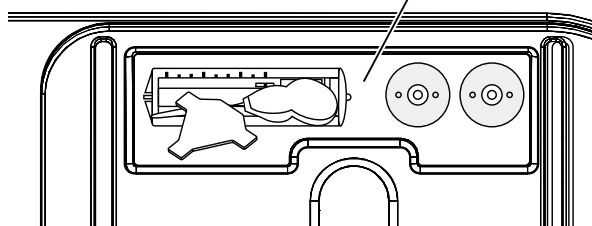
- 【1】 ミシンの背面の『スライド機構の滑り止め』に指をかけます。
- 【2】 そのまま手前に『カチャ』と音が鳴るまで引くと、ミシンが傾きます。
- 【3】 ミシンの背面に付属品を収納できるスペースが見えます。

<ミシン背面側>



<ミシンを上から見た図>

付属品入れ



模様選択



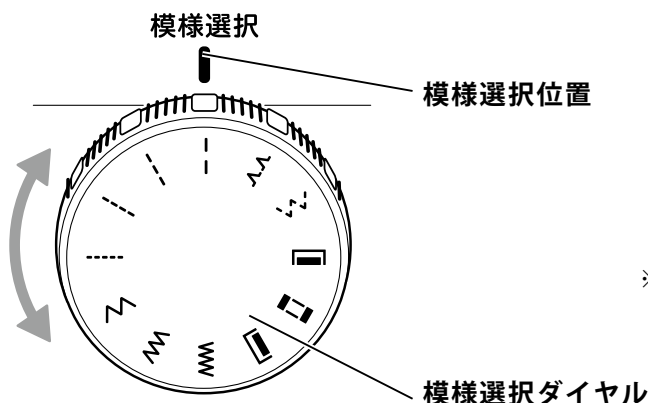
注意



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



・針が生地に刺さった状態で
模様選択ダイヤルを回さない。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

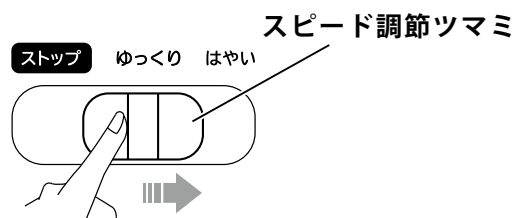


模様選択は『模様選択ダイヤル』を回して、
『模様選択位置』にお好みの縫い模様を合わせます。
※『模様選択ダイヤル』は左右どちらにも回すことができます。

表示					
模様	直線縫い (中基線) 送り幅・最大 送り幅・大 送り幅・中 送り幅・小	ジグザグ縫い 送り幅・大 送り幅・中 送り幅・小	ボタンホール	点線ジグザグ	まつり縫い
用途	地縫い	ほつれ止め	ボタンホール	パッチワーク ほつれ止め	裾上げ

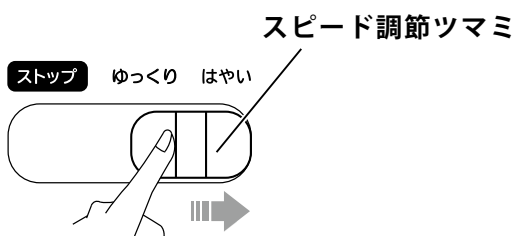
スピード調節つまみ

『スピード調節つまみ』を『ゆっくり』、『はやい』に
合わせるとミシンは動きます。
ミシンの運転速度を好みのスピードにセットします。



● ゆっくり縫うとき...

ゆっくり : 『スピード調節つまみ』を『ゆっくり』に
合わせます。



● はやく縫うとき...

はやい : 『スピード調節つまみ』を『はやい』に
合わせます。

※ ミシンを停止させたいときは『スピード調節つまみ』を
『ストップ』に合わせます。

※ フットスイッチ使用時は『スピード調節つまみ』を
『ストップ』に合わせます。

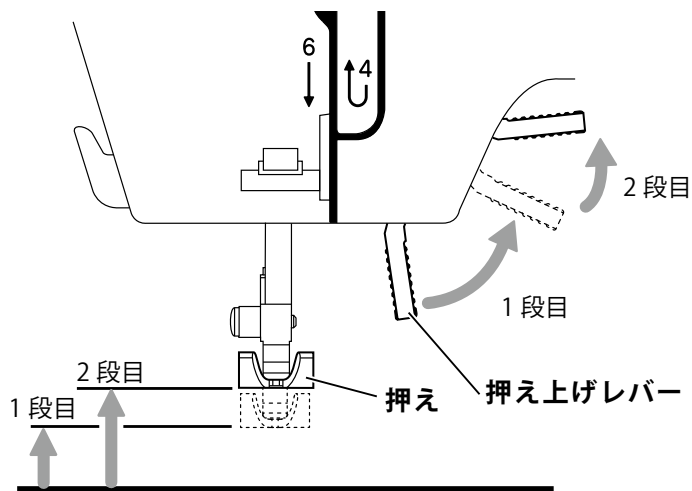
押え上げレバー



注意



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



『押え上げレバー』を上げると、『押え』が上がります。
更に『押え上げレバー』を上げると、『押え』が
もう1段上がる2段階式になっています。

※2段階目では、『押え』の高さは固定できません。

※生地の高みは1段階目の高さを超えないようにしてください。

押えの取り外しかた・取り付けかた



注意



・電源スイッチを『切』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

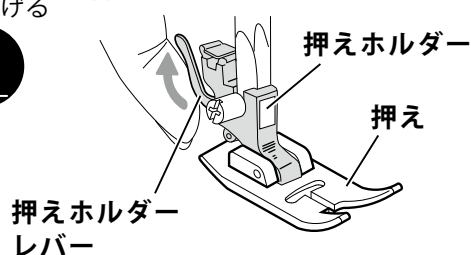


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

針を上げる



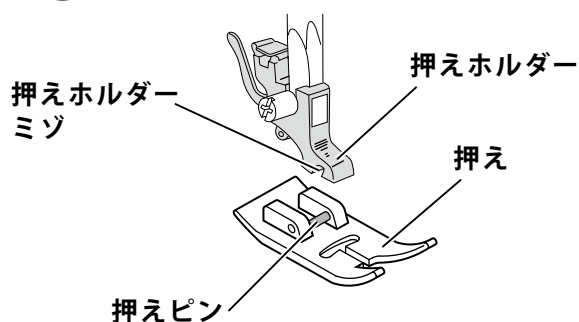
押えホルダーレバーを上げる



●押えの外しかた

- 【1】『はずみ車』を手前に回し、針を上げます。
- 【2】『押え上げレバー』を上げます。
- 【3】『押えホルダーレバー』を上げると、
『押え』が外れます。

針を上げる



●押えの取り付けかた

- 【1】『針』と『押え上げレバー』を上げます。
- 【2】『押えピン』を『押えホルダーミツ』の
真下に置きます。
- 【3】『押え上げレバー』をゆっくり下げ、『押えピン』と、
『押えホルダーミツ』を合わせます。

※『押え』がセットされると「カチッ」と音がします。

※音がしない場合や『押え』がすぐに外れるときは
もう一度『押えピン』と『押えホルダーミツ』の
位置を合わせ直してください。

押えホルダー取り外しかた・取り付けかた



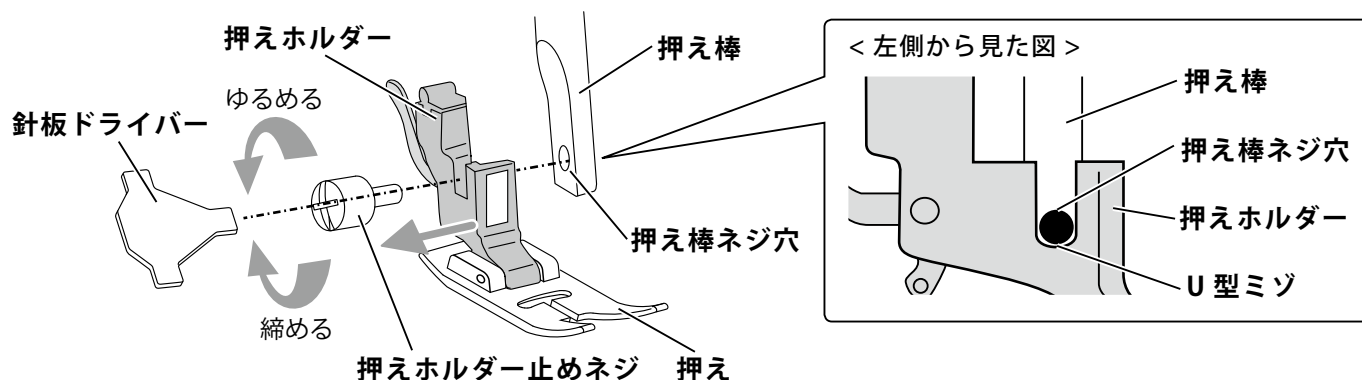
注意



・電源スイッチを『切』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



- 【1】『はずみ車』を手前に回し、針を上げます。
- 【2】『押え上げレバー』で『押え』を上げます。
- 【3】外す：『押えホルダー止めネジ』を『針板ドライバー』でゆるめ、
『押えホルダー』を外します。

付ける：『押えホルダー』の『U型ミゾ』と『押え棒ネジ穴』の位置を合わせ、
『押えホルダー止めネジ』を『針板ドライバー』で強く締めます。

※ 付属の『針板ドライバー』をご使用ください。

ボビンの取り出しかた



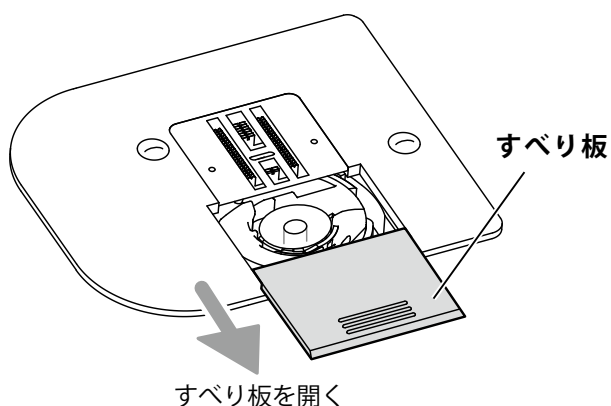
注意



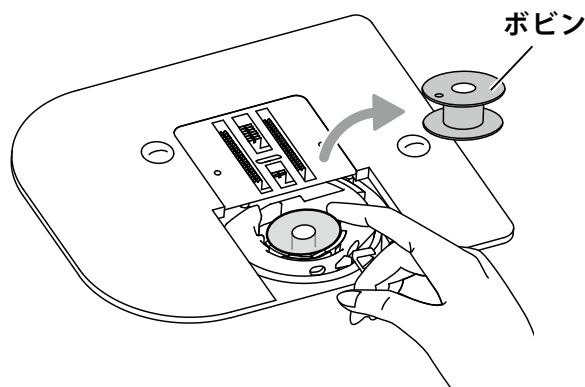
・電源スイッチを『切』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



- 【1】『押え上げレバー』を『押え』を上げます。
- 【2】『すべり板』を手前に引いて開きます。



- 【3】『ボビン』を取り出します。

下糸の準備

※ ボビンは家庭用プラスチックボビン(高さ11.5mm×直径20.5mm)をご使用ください。
(異なるボビンをご使用しますとミシンの故障の原因になる恐れがあります)

●下糸の巻きかた



注意



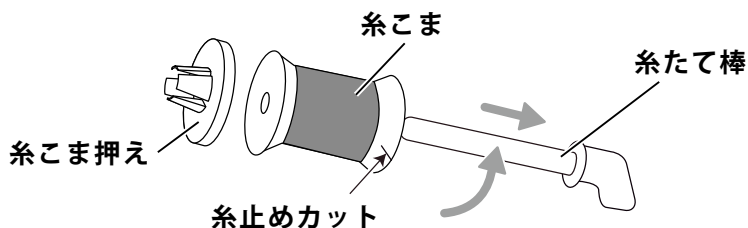
・電源スイッチを『切』にする。
突然動くとかガをする恐れがあります。



・下糸巻きの作業中は針、天びん、
はずみ車に触れない。



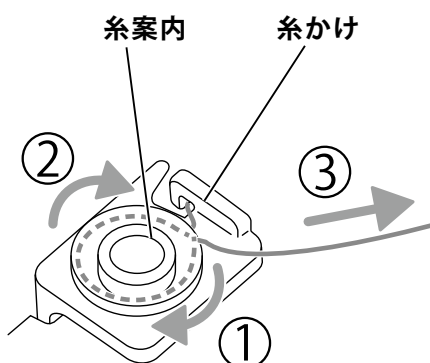
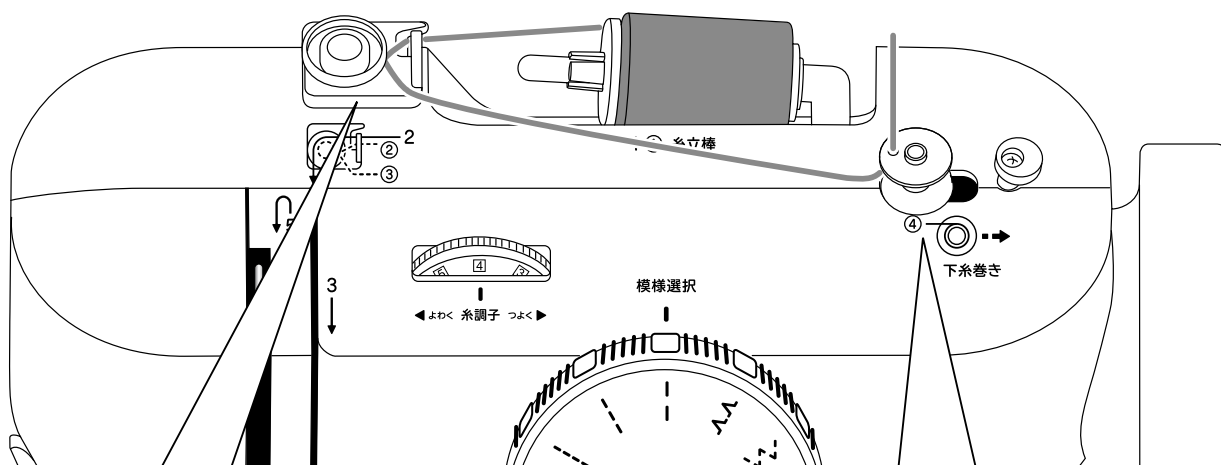
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



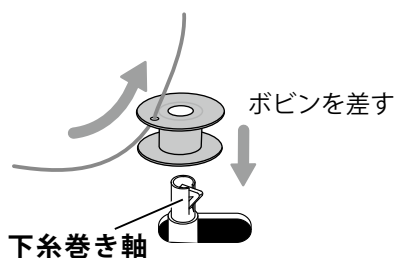
【1】『糸たて棒』を少し上に傾け、『糸こま』の『糸止めカット』を
『糸たて棒』の根元側に向け、奥まで差し込みます。

『糸こま』が飛び出してこないように『糸こま押え』でしっかり押えます。

※ 糸こまをセットしたあとは『糸たて棒』を立てたまま使用しないでください。

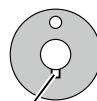


【2】『糸かけ』にかけ、『糸案内』の
下を1回転させ、奥まで
しっかり糸をかけます。



【3】『ボビン』の穴に内側から糸を通し、
『ボビン』を『下糸巻き軸』に差します。

ボビン 下糸巻き軸

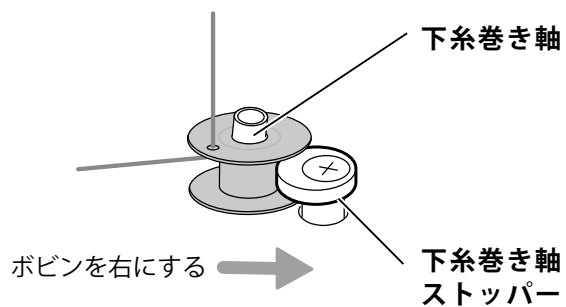


凹

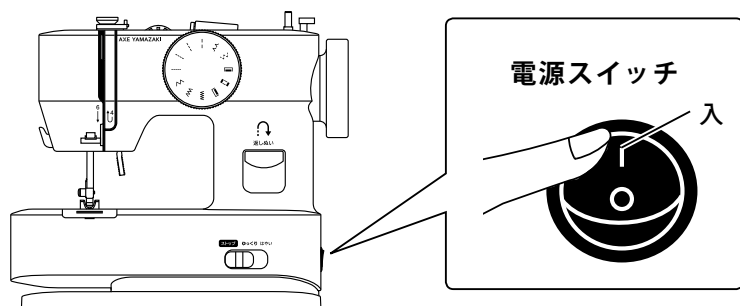


下糸巻き軸バネ

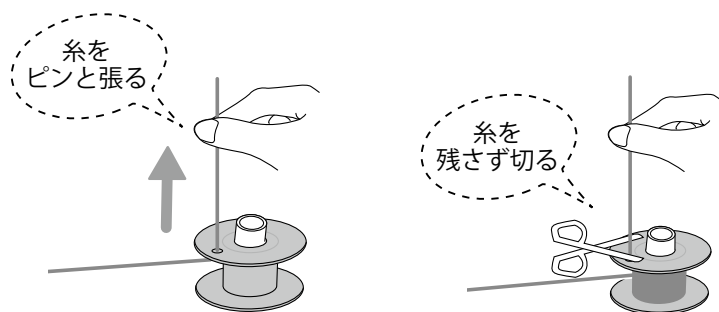
※ 『ボビン』を『下糸巻き軸』に差すとき、
『ボビン』の凹と『下糸巻き軸バネ』を
合わせて下さい。



【4】『下糸巻き軸』を右に移動させます。

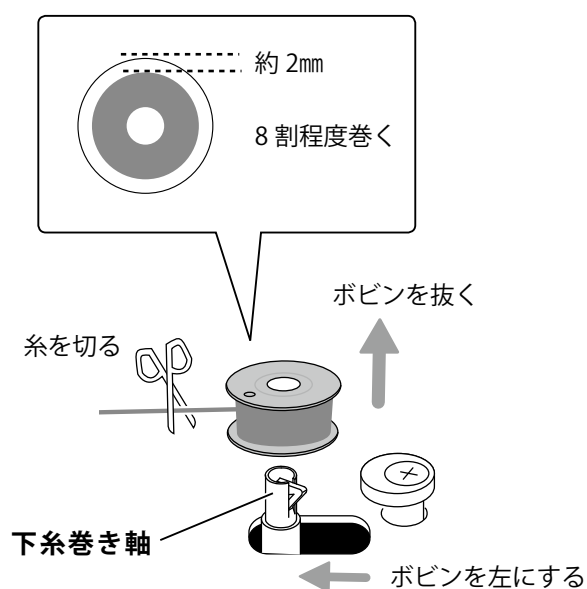


【5】ミシンの右側面の『電源スイッチ』を『I』側に押し、電源を入れます。



【6】糸の端を持ち『スピード調節つまみ』を『ゆっくり』にして『ボビン』に数回、糸を巻きつけます。

【7】『スピード調節つまみ』を『ストップ』にしてミシンを一度止め、持っていた糸を『ボビン』の穴のきわで切ります。



【8】『スピード調節つまみ』を『はやい』にして 8 割ほど巻き終わったら、ミシンを止めます。『下糸巻き軸』を左に戻し、『ボビン』を抜き、糸を切ります。

●下糸のセット

※ ボビンは家庭用プラスチックボビン（高さ 11.5mm×直径 20.5mm）をご使用ください。
（異なるボビンをご使用しますとミシンの故障の原因になる恐れがあります）



注意



・電源スイッチを『切』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

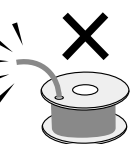
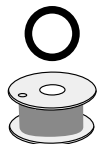


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



注意

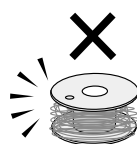
※ 糸の端が下記のように残っていると、糸がカマの内部に引っかかり、糸絡みの原因になります。



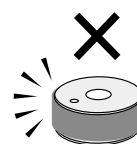
糸が残っている



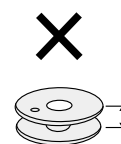
糸の輪が出来ている



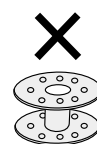
糸がゆるい



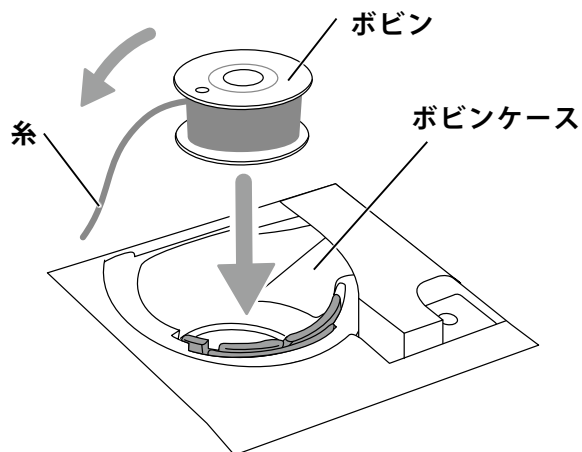
糸を巻き過ぎている



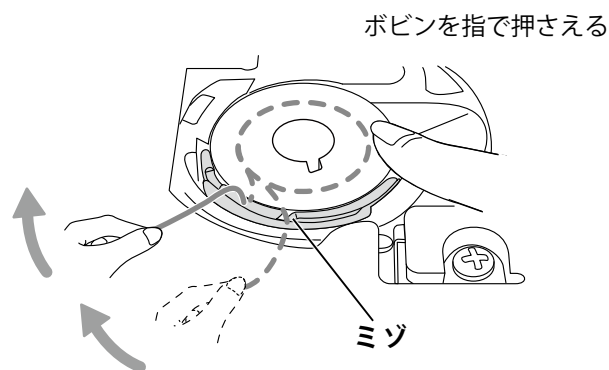
ボビンの
サイズが異なる



金属製のボビン



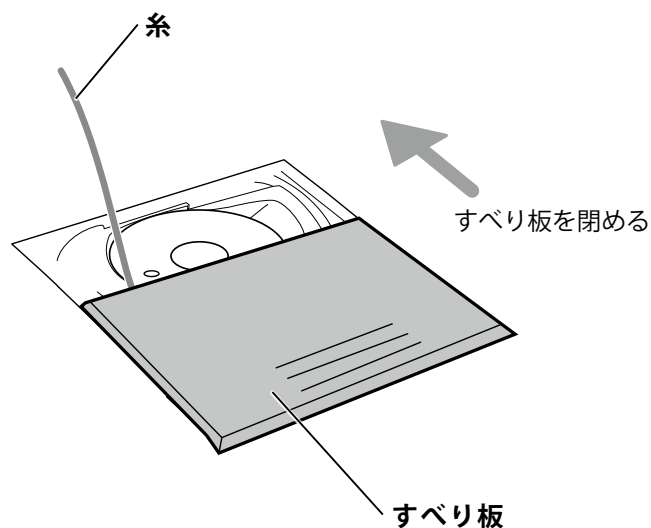
【1】 下糸は『ボビン』の左側から糸が出るように『ボビンケース』に入れます。



【2】 『ボビン』を指で軽く押えながら、引き出した糸を『ミゾ』にかけ、左奥に引き出します。



【3】 糸を向こう側に約 15cm 引き出します。
※ 糸を引き出したとき、『ボビン』は反時計方向に回転します。



【4】 『すべり板』を閉めます。

上糸の準備

●上糸のかけかた



注意



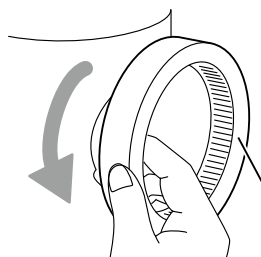
・電源スイッチを『切』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

準備：ポイント！

< ミシン右側面 >

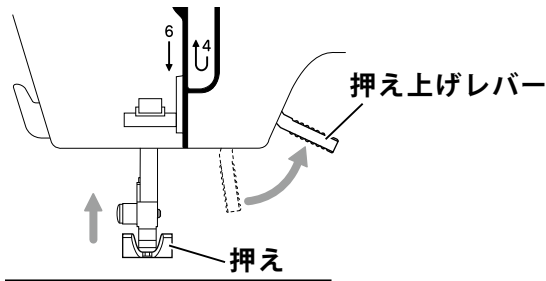


針を上げる

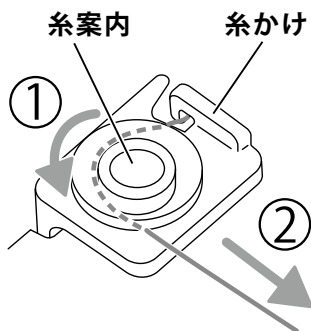
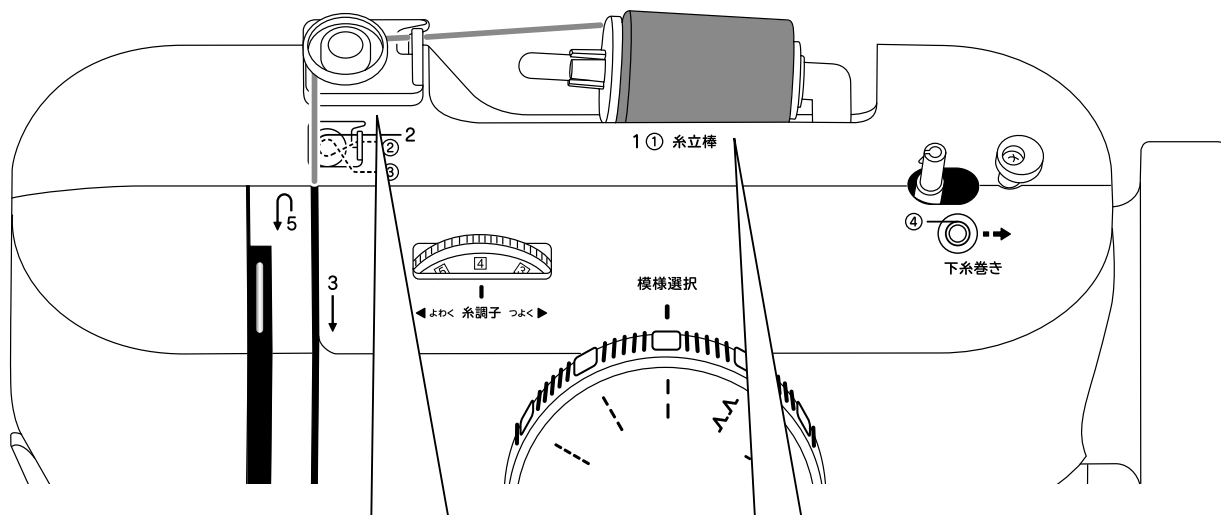


はずみ車

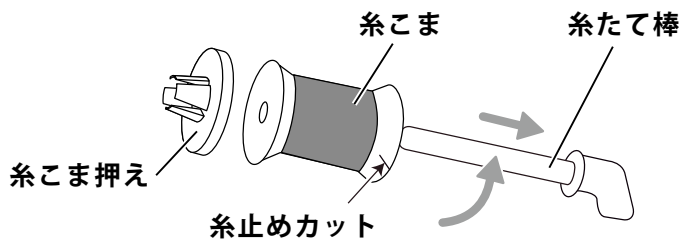
『はずみ車』を手前に回し、『天びん』を一番上にします。



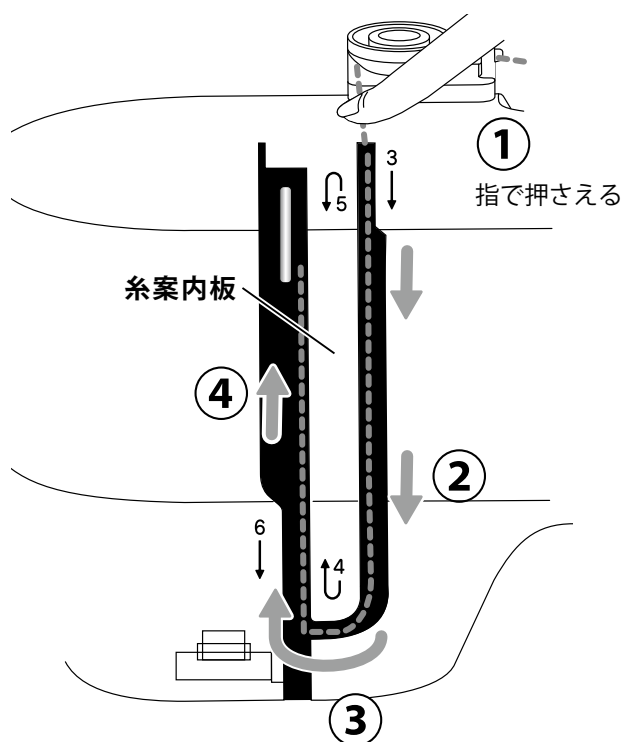
『押え上げレバー』で『押え』を上げます。



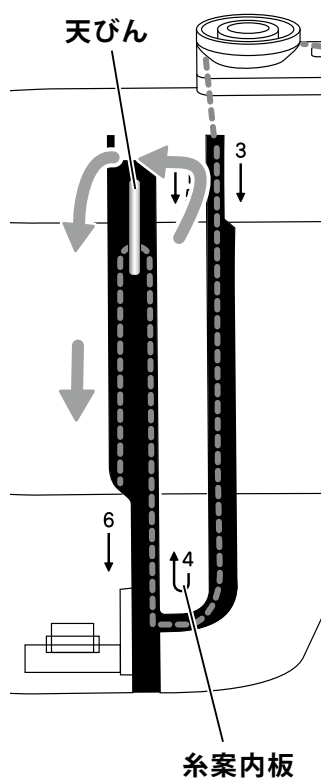
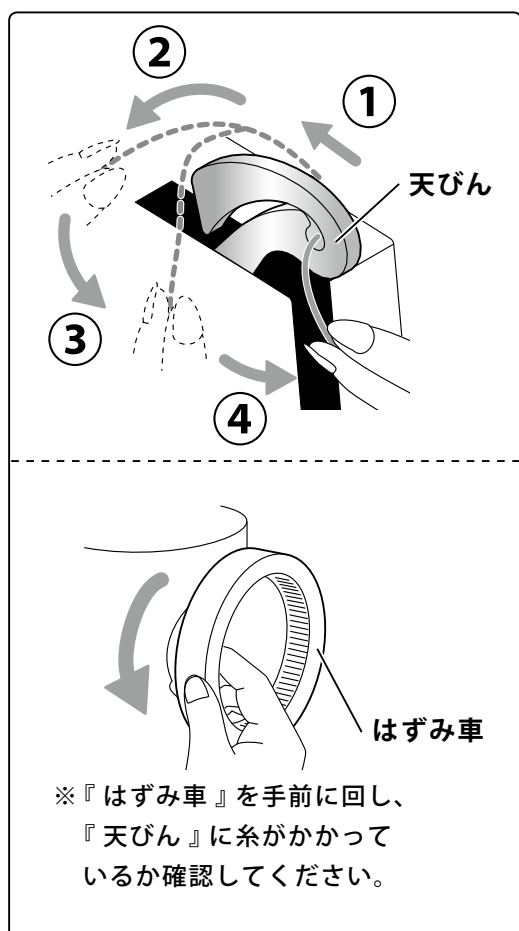
【2】『糸かけ』にかけ、
『糸案内』の下を奥まで
しっかり糸をかけます。



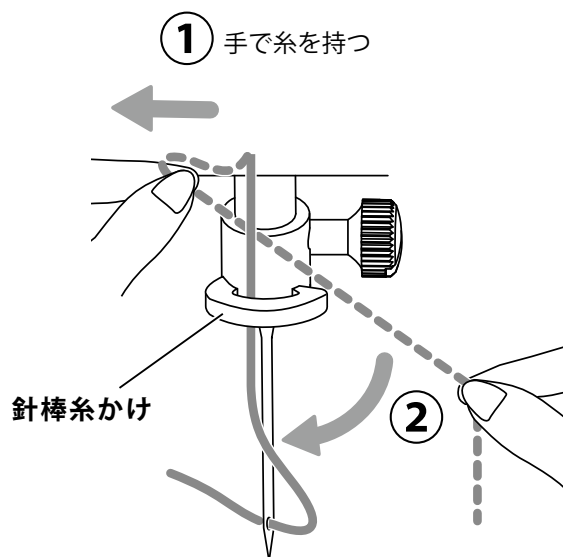
【1】『糸たて棒』を少し上に傾け、『糸こま』の
『糸止めカット』を『糸たて棒』の根元側に向け、奥まで
差し込みます。『糸こま』が飛び出さないように
『糸こま押え』でしっかり押えます。
※糸こまをセットしたあとは『糸たて棒』を立てたまま
使用しないでください。



- 【3】 糸を指で軽く押えながら
『糸案内板』にそって下して、
左上に引き上げます。



- 【4】 糸を『天びん』の穴に右から
左に通し、そのまま『糸案内板』
にそって糸をおろします。

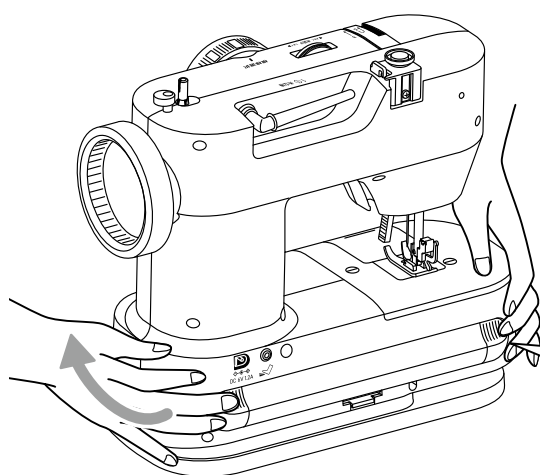


【5】『針棒糸かけ』に右から糸をかけます。

【6】針穴に手前から糸を通します。

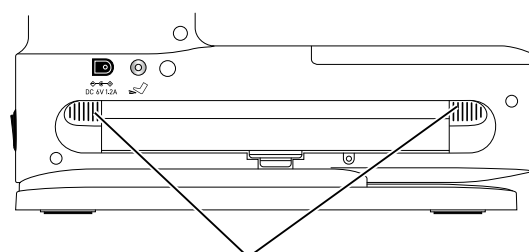
●針穴に糸が通しにくいときは・・・

<ミシン背面側>

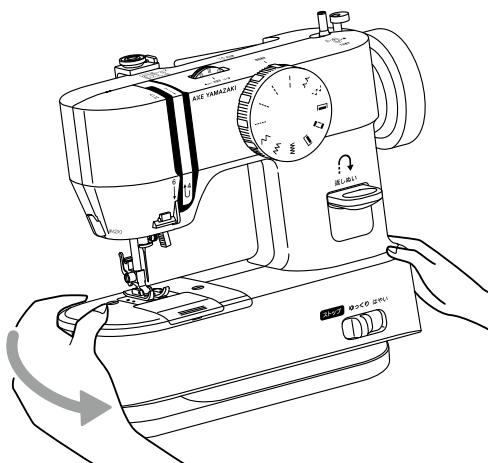


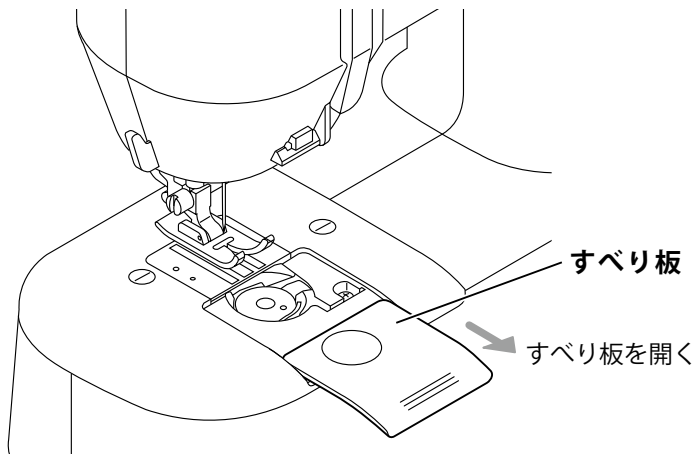
【1】ミシンの背面の『スライド機構の滑り止め』に指かけ、手前に『カチャ』と音が鳴るまで引くと、ミシンが傾きます。

<ミシン背面側>



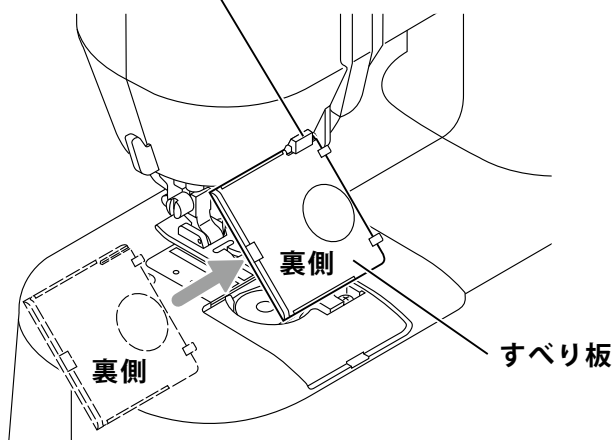
滑り止め



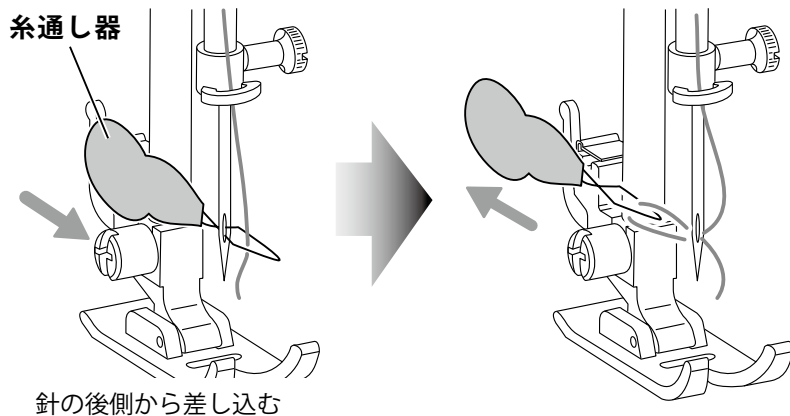
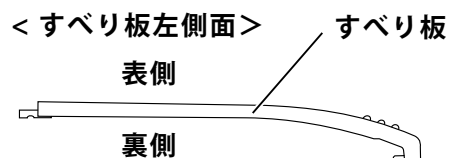


【2】『すべり板』を手前に引いて開きます。

レンズ取り付け部



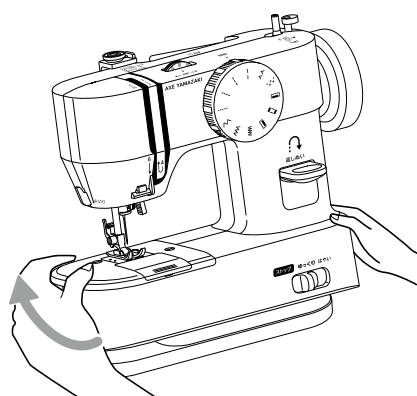
【3】『すべり板』の裏側を手前にして『レンズ取り付け部』にセットします。



【4】針の後側から『糸通し器』を通します。
『糸通し器』の上から糸を通し、
『糸通し器』を後側に引きます。

※『糸通し器』が使いにくいときは『押え』を
下げてください。

※『糸通し器』を使用しない場合、針穴に正面から
後側に糸を通します。



【5】すべり板をレンズ取り付け部から外して、
すべり板を締めます。

【6】ミシンの背面の『スライド機構の滑り止め』に
指かけ、後方に『カチャ』と音が鳴る
まで押して、ミシンを戻します。

※ミシンを傾けたまま使用しないでください。

●下糸の引き上げかた



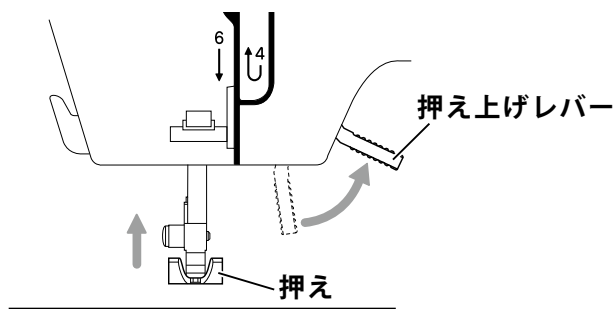
注意



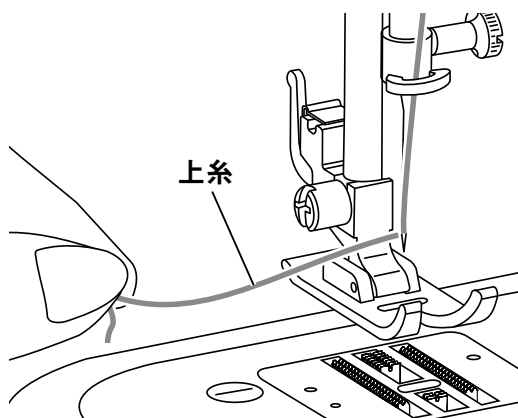
・電源スイッチを『切』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



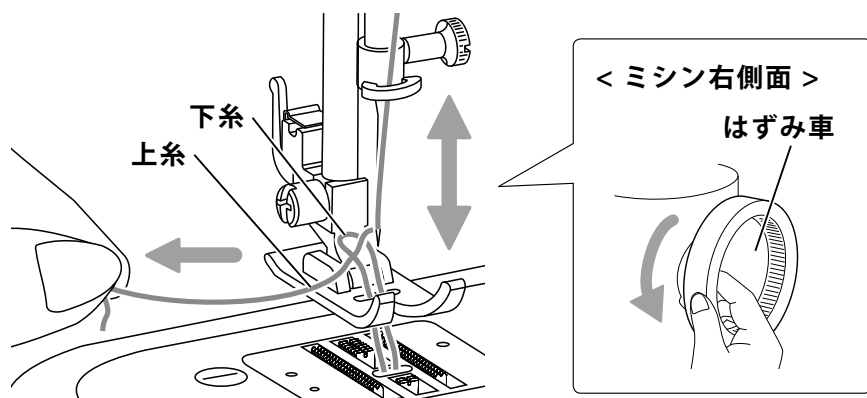
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



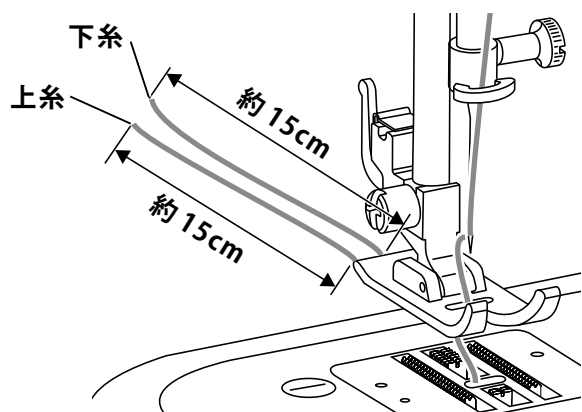
【1】『押え上げレバー』で『押え』を上げます。



【2】上糸の端を持ちます。



【3】『はずみ車』を手前に1回転させ、上糸を軽く引くと下糸の輪が引き出されます。下糸の輪をつまみ、下糸を引き上げます。



【4】上糸と下糸をそろえ『押え』の下に通し、約15cm後方に引き出します。



注意



糸を約15cm以上引き出してください。

※糸を15cm以上引き出さないと、縫い始めに針から糸が抜けて『天びん』に絡んでしまいミシンが動かなくなることがあります。



注意



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



・針が生地に刺さった状態で模様選択ダイヤルを回さない。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

ポイント！

● ミシンをより快適に使うために

※ 縫い損じを防ぐため、次のことを実施してください。



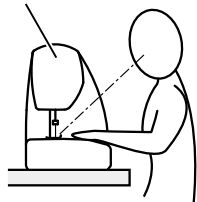
注意



・安定した場所にミシンを設置する。・作業スペースを十分に確保する。
・周囲に物を置かない。

はずみ車や針など動く部分が露出しています。ケガをする恐れがあります。

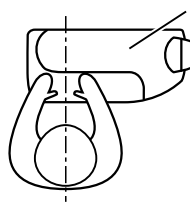
ミシン



針先が無理なく見える位置に
ミシンを設置してください。

針の中心

ミシン

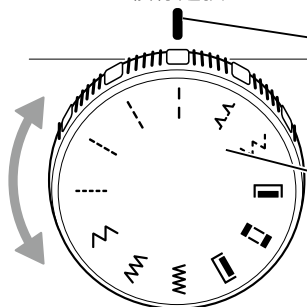


針の中心と身体の中心が
一致するようにミシンを
設置してください。
※ 中心がずれてしまうと生地も
ずれて進んでしまいます。

模様選択

模様選択位置

模様選択ダイヤル

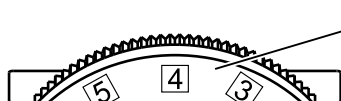


【1】 縫い模様を選びます。

(P9 / 模様選択を参照してください)

上糸調節ダイヤル

上糸調節位置



◀ よわく 糸調子 つよく ▶

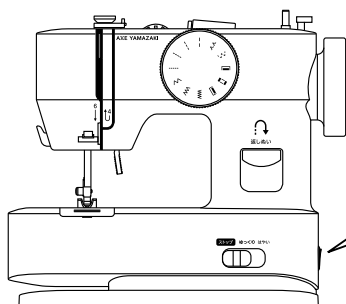
【2】 『上糸調節ダイヤル』を4に合わせます。

※ 生地の厚さや種類によって
『上糸調節ダイヤル』の数字を変えます。
(P25 / 糸調子の合わせかたを参照して
ください)

電源スイッチ

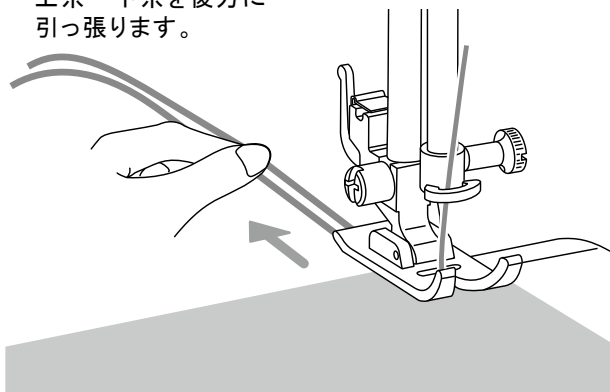
入

【3】 『電源スイッチ』を『I』側に押し、
電源を入れます。



①

上糸・下糸を後方に
引っ張ります。



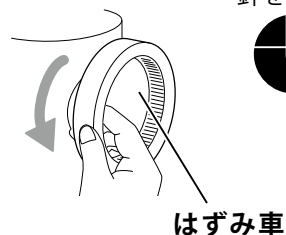
【4】生地を『押え』の下に置き、『上糸』と『下糸』をミシンの後方に引っ張りながら『はずみ車』を手前に回して、縫い始める位置に針を刺し『押え』を下げます。

※『上糸』と『下糸』をミシンの後方に引っ張りながら針を刺さないと、縫い始めるときに針や天びんから糸が外れて、糸絡みが発生します。

②

< ミシン右側面 >

針を下げる



はずみ車

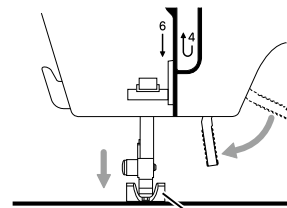
③

< ミシン正面図 >

押え上げ
レバー

押えを下げる

押え



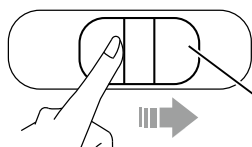
注意



糸を約 15cm 以上
引き出してください。

※糸を 15cm 以上引き出さないと、縫い始めに針から糸が抜けて『天びん』に絡んでしまいミシンが動かなくなることがあります。

ストップ ゆっくり はやい



スピード調節つまみ

【5】

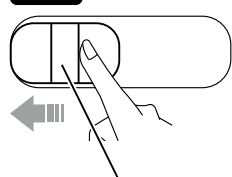
●手元操作の場合

『スピード調節つまみ』を『ゆっくり』に合わせると、ミシンは動きます。

●フットスイッチの場合

『スピード調節つまみ』を『ストップ』に合わせて、『フットスイッチ』を踏み込むとミシンは動きます。

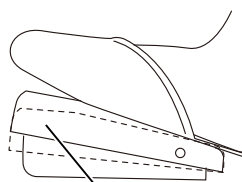
ストップ ゆっくり はやい



スピード調節つまみ

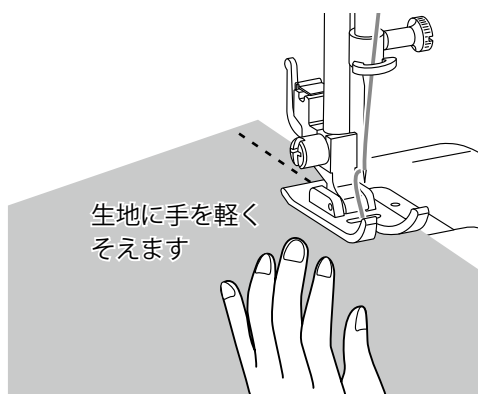
ゆっくり

はやい



フットスイッチ

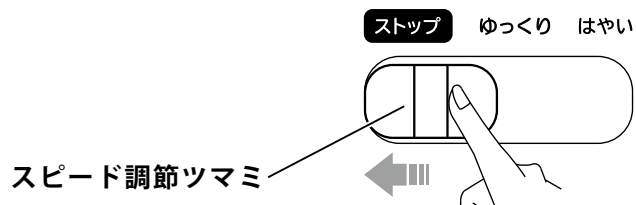
生地に手を軽く
そえます



【6】生地に手を軽くそえ、生地の進む方向を修正します。

※縫い上がりの生地の糸調子が合わない場合、P25／糸調子の合わせかたを参照してください。

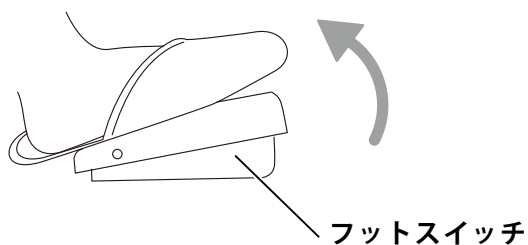
※糸かけなどの間違いがないか確認のため、『はずみ車』を手前に回し、3～5針を縫います。



【7】

●手元操作の場合

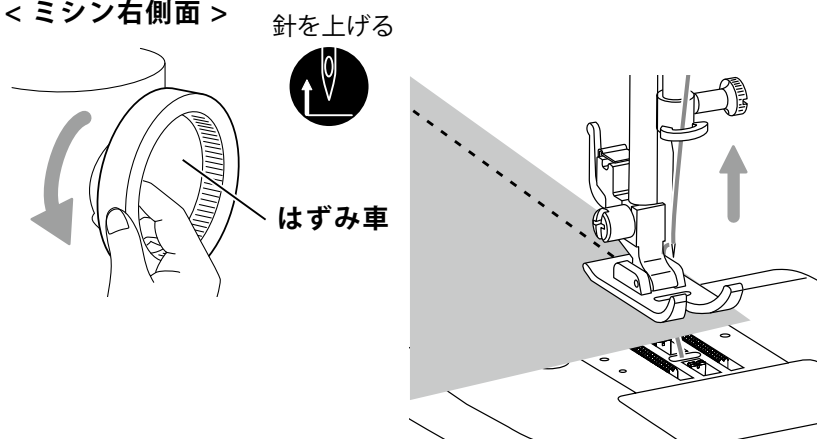
『スピード調節ツマミ』を『ストップ』に合わせると、ミシンは止まります



●フットスイッチの場合

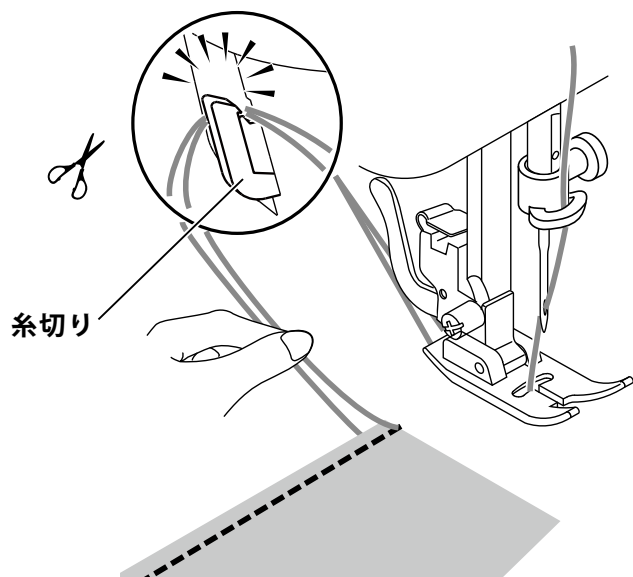
『フットスイッチ』を踏み込むのを止めると、ミシンは止まります。

< ミシン右側面 >



【8】『はずみ車』を手前に回して、針を一番上まで上げます。

※針が一番上まで上がっていないと、糸がかまの内部に引っかかり、スムーズに糸を引き出すことができません。



【9】『糸切り』で糸を切ります。

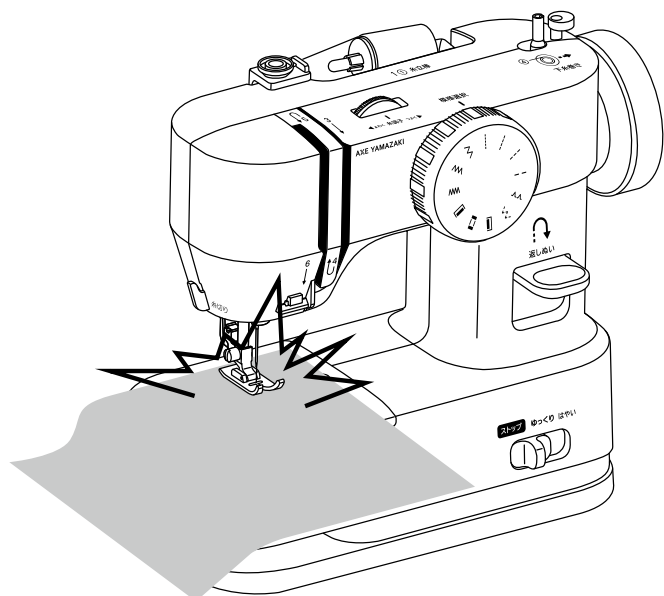
●糸が絡んでしまったときは・・・



注意



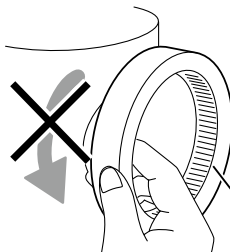
※縫っているとき途中で止まったり、針が刺さらなくなったときは動かさないでください。故障の原因になります。



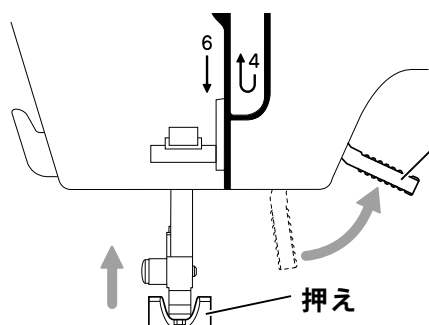
< ミシン右側面 >



※縫っているとき途中で止まったり、針が刺さらなくなったときは、『はずみ車』を回さないでください。



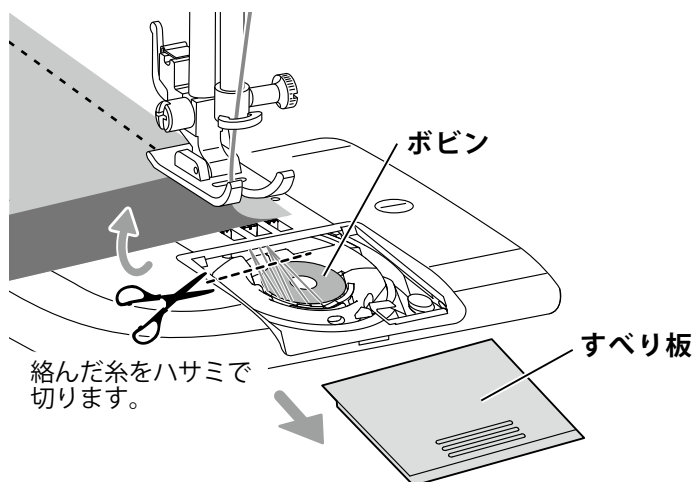
はずみ車



押え上げレバー

押え

【1】『押え上げレバー』で『押え』を上げます。



ボビン

すべり板

【2】『すべり板』を開きます。

【3】かまの中で絡んだ糸を切ります。

【4】『はずみ車』が軽く回ることができたら、針を上げて生地を取り出します。



注意



※生地を無理に引っ張ったり、『はずみ車』を回さないでください。故障の原因になります。

ジグザグ縫い／縁かがり縫い

生地の端のほつれを防止します。



注意

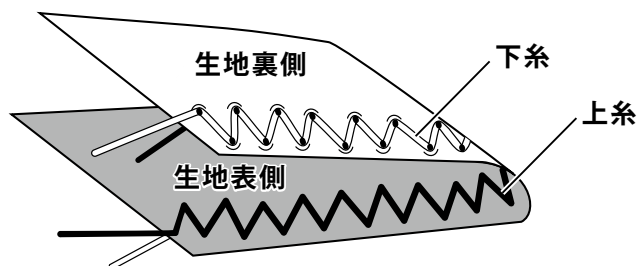
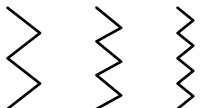


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



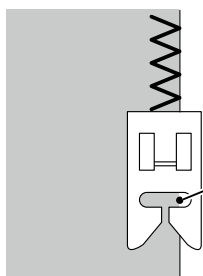
・針が生地に刺さった状態で模様選択ダイヤルを回さない。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

模様表示



●ジグザグ縫い

- 【1】『模様選択ダイヤル』で、ジグザグ模様を選択します。
- 【2】『押え』を下げ、縫い始めます。



右側で針が刺さる位置
(生地端より針が少し
外れる位置)

●縁かがり縫い

- 【1】『模様選択ダイヤル』で、ジグザグ模様を選択します。
- 【2】『はずみ車』を手前に回して針が右のときに、生地端より針が少し外れるように生地を置き、『押え』を下げ、縫い始めます。

伸縮生地を縫う

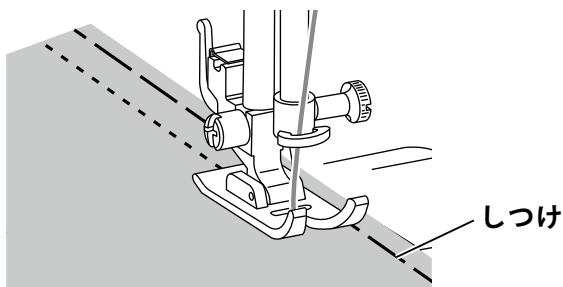
※ 縫い目が飛ぶときは、市販の家庭用ニット用針をご使用下さい。



注意



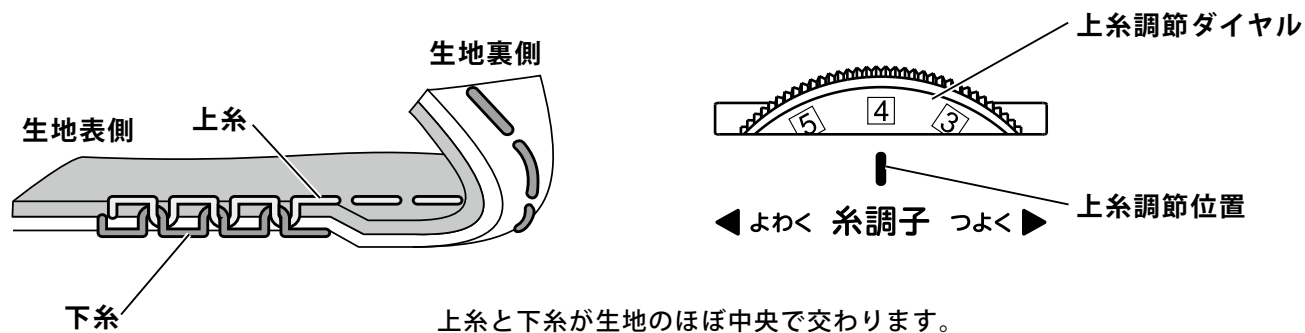
・針が生地に刺さった状態で模様選択ダイヤルを回さない。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。



※ 縫い合わせる生地がずれないように『しつけ』をして生地に手をそえて縫います。

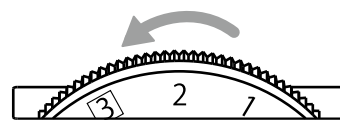
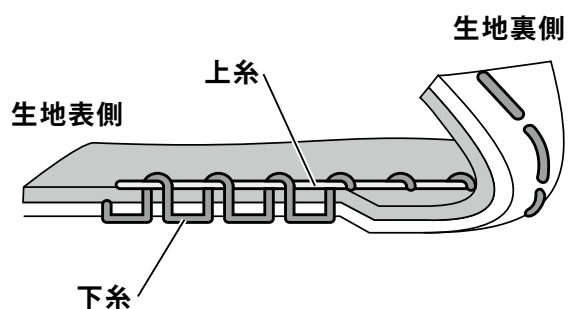
糸調子の合わせかた

- **正しい糸調子** 糸調子が合わない場合は、上糸調節ダイヤルを回し調節してください。



上糸と下糸が生地のほぼ中央で交わります。

- **上糸が強いとき...**



◀よわく 糸調子 つよく▶

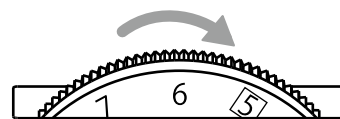
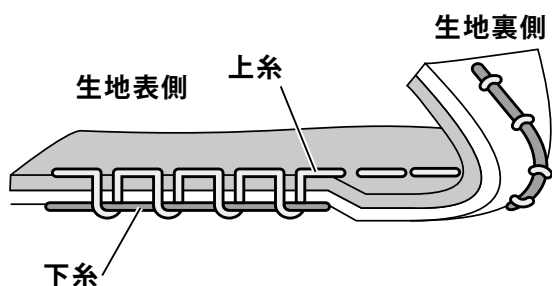
下糸が生地の表に出ます。

『上糸調節ダイヤル』を数字の小さい方に回します。

※ 下糸のボビンが正しくセットされているかの確認もしてください。

(P14 / 下糸のセットを参照してください)

- **上糸が弱いとき...**



◀よわく 糸調子 つよく▶

上糸が生地の裏に出ます。

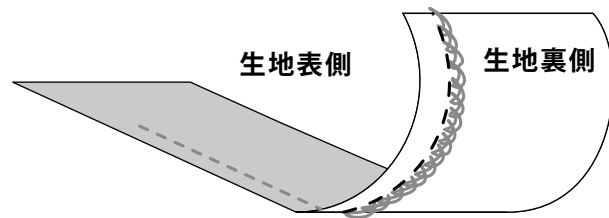
『上糸調節ダイヤル』を数字の大きい方に回します。

※ 上糸のかけかたが間違っていないかの確認もしてください。

(P15 / 上糸のかけかたを参照してください)

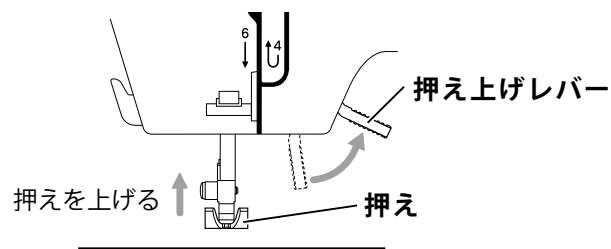
●生地裏側の糸がタオル状になるとき

- ・上糸の糸調子が弱い。
- ・『押え上げレバー』が上がっている。
- ・上糸のかけかたが間違っている。
- ・『天びん』から上糸が外れている。
- ・かまや針板に傷がある。
- ・ボビンの種類が異なる。

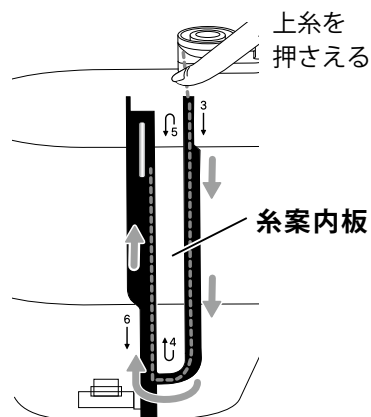


ポイント！

※『押え』を上げ、上糸を全て外し、上糸を再度正しくかけ直してください。
(P15 / 上糸のかけかたを参照してください)



『押え上げレバー』で『押え』を上げます。



上糸を押さえながらミソの奥に
しっかり糸を通します。

糸、針、生地の関係

	生地の種類	針の種類・番号	糸の種類・番号
薄地	一般裏地、ローン、ジョーゼット、レース、キュプラ など	9、11 番	綿 60 ～ 100 絹 50 ～ 90 化繊糸 60 ～ 90
普通地	一般服地、ブロード、ソフトデニム、サテン、パイル、ギンガム など	11、14 番	綿 60 ～ 90 絹 50 ～ 90 化繊糸 60 ～ 90
厚地	キルティング、※フリース、ツイード、デニム、フェルト など	14、16 番	綿 40 ～ 50 絹 50 化繊糸 50 ～ 60
伸縮地	ニット、トリコット、スパンデックス、ジャージ など	ニット用針 11、14 番	綿 60 化繊糸 50 ～ 90 ニット用糸 50 ～ 90

※ 針は数字が大きくなるほど太くなります。 ※ 糸は数字が大きくなるほど細くなります。

(針の交換方法は P33 の針の交換をご参照ください)

※ きれいに縫うためには、生地にあった針と糸をご使用ください。(表をご参照ください)
上糸と下糸は同じ種類・同じ太さの糸をご使用ください。

※ 表はあくまで参考です。必ず試し縫いをして、縫い目をご確認ください。
針は家庭用ミシン針 (HA × 1)、糸は家庭用ミシン糸とご指定の上お買い求めください。
(工場出荷時、ミシン本体には 14 番の針が装備されています)

※ 針は 14 番しか付属していません。9 番、11 番、16 番の針、ニット用針は付属されていません。

※ フリース、ベルベット、バスタオルなどの毛足が長い生地は、縫製に技術が必要なので推奨できません。

※ カタン糸、ニット用糸、テグス糸 (透明) の糸は、縫製に技術が必要なので推奨できません。

※ 厚い生地や固い生地は、針が刺さりにくく止まってしまうことがあります。
その時は『はずみ車』を手前に回しながらゆっくり縫い進めて下さい。
(手で回しても固いときは、『はずみ車』を無理に回さないで下さい。故障の原因になる恐れがあります)

返し縫い



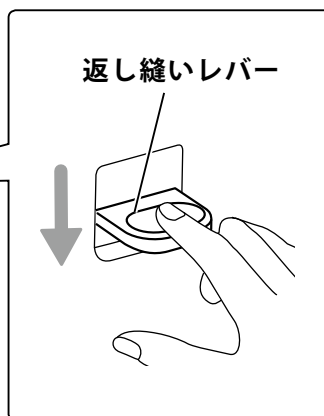
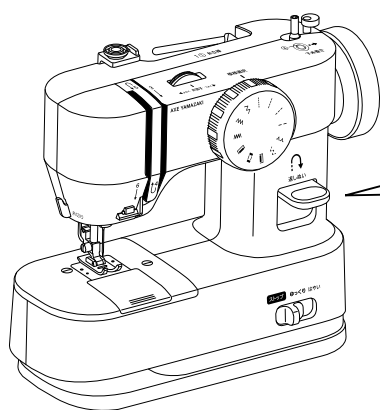
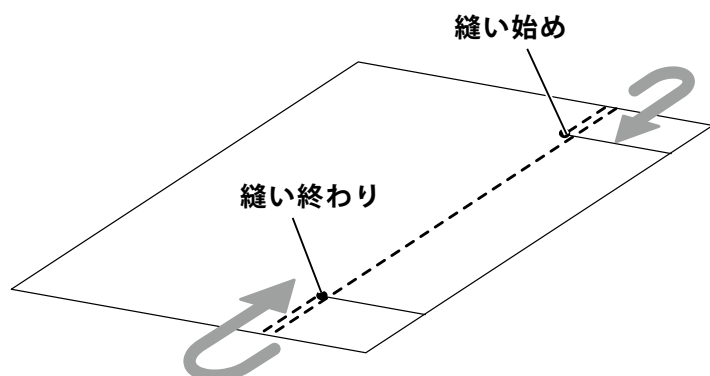
注意



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

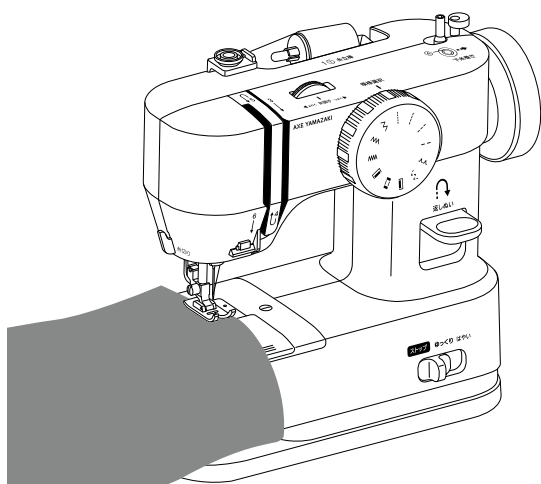


・針が生地に刺さった状態で返し縫いレバーを押さない。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。



ミシンが動いているとき、『返し縫いレバー』を押している間は後進縫いになり、
『返し縫いレバー』から手を放すと前進縫いに戻ります。
※ 縫い始めと縫い終わりに返し縫いをするとほつれ止めになります。

フリーアーム



ズボンの裾や袖のような筒状のものを
左側から差し込んで縫うことができます。

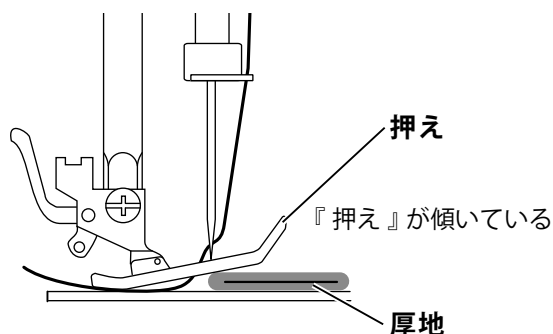
厚地や段差を縫うときは

※ 厚い生地は、生地を貫布する力が必要なので、『電池』をご使用するより『ACアダプター』をご使用ください。

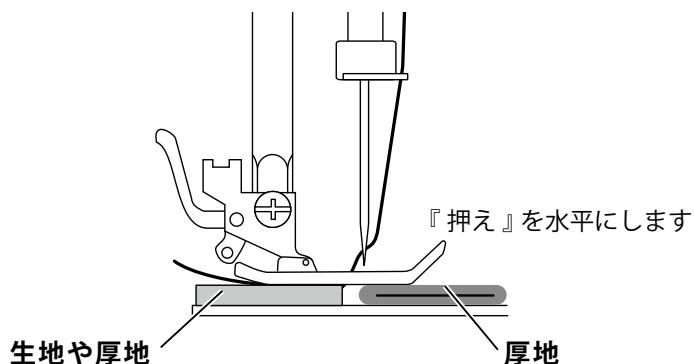
※ 厚い生地や固い生地は、針が刺さりにくく止まってしまうことがあります。

その時は『はずみ車』を手前に回しながらゆっくり縫い進めて下さい。

(手で回しても固いときは、『はずみ車』を無理に回さないで下さい。故障の原因になる恐れがあります)



【1】 厚い生地を生地の端から縫い始めるときや、持ち手を縫うときに『押え』が傾くと、生地が進まなくなることがあります。



【2】 その場合、『押え』の下に生地と同じ厚さの生地や厚紙を置き、傾きをなくすと順調に縫い始めることができます。

※ タオル生地を縫うときは、両端の耳を切り落としてから縫ってください。

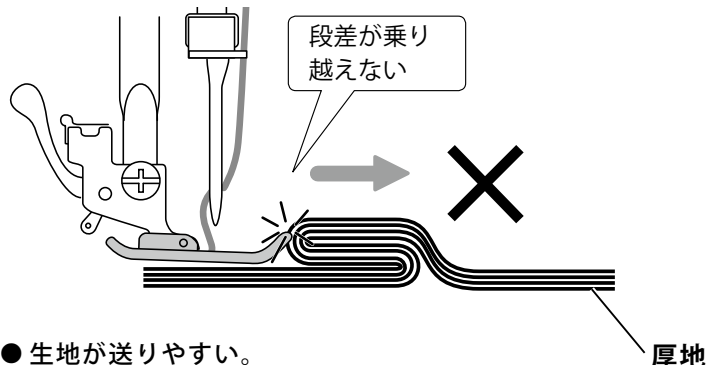
※ 厚地を縫うときの糸は、50、60番をご使用ください。30番の糸は使用しないでください。

※ 厚地を縫うときは、市販の家庭用ミシン針：16番をご使用されることを推奨します。

※ 家庭用ミシン針：16番は付属しておりません。

● 厚い生地の段差

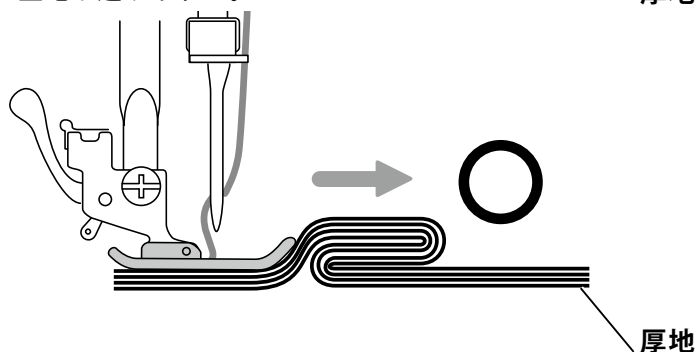
● 生地が送りにくい。



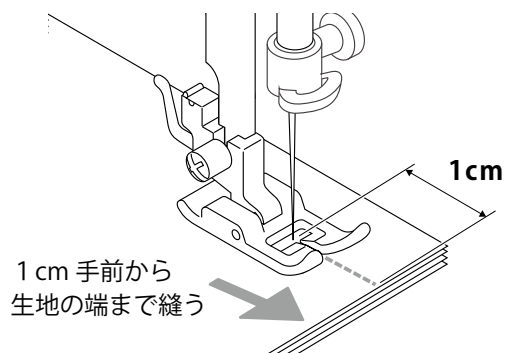
※ 厚い生地の折り重なった部分の方向に注意してください。

※ 押えが生地につかかり縫い進むことができません。

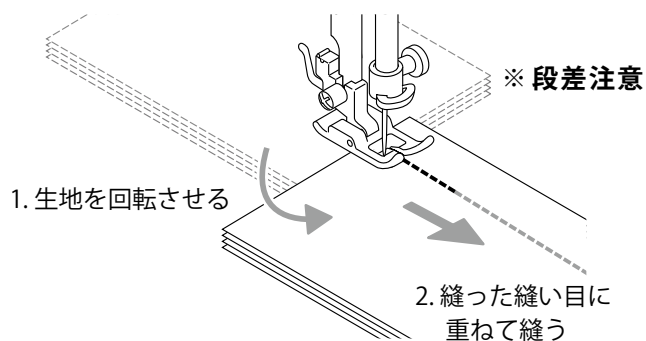
● 生地が送りやすい。



●厚い生地の返し縫い



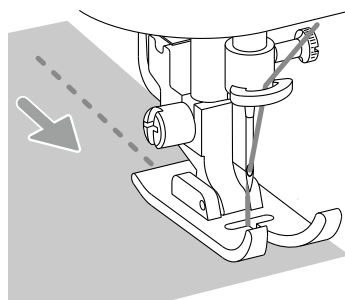
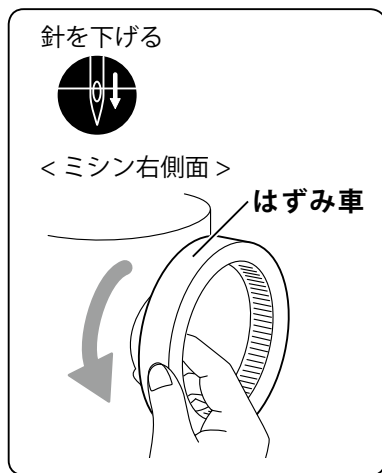
【1】 生地の手前から 1cm 手前のところに針を刺し、そこから生地の手前まで縫います。



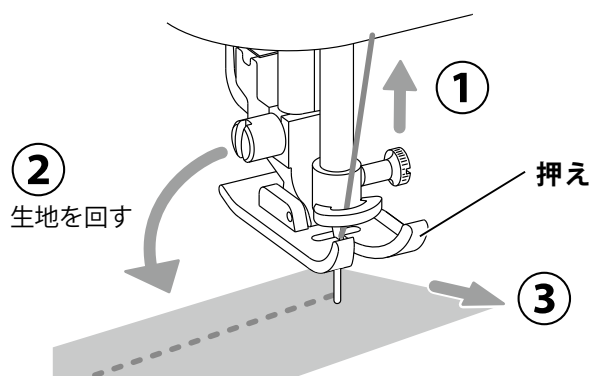
【2】 針を刺した状態のまま『押え上げレバー』で『押え』を上げて、生地を回転させます。

『押え上げレバー』で『押え』を下げます。
先ほど縫った縫い目に重ねて縫います。

縫い方向の変えかた



【1】 生地の手前まで縫い、ミシンを止め、
『はずみ車』を手前に回し、針を生地に刺します。



【2】 『押え上げレバー』で『押え』を上げ、針を軸に生地を回し、縫い方向を変えます。
再び『押え上げレバー』で『押え』を下げ、縫い始めます。

まつり縫い（裾上げ）

スカートやズボンの裾上げをするときに用います。
生地の上に目立たない縫い目です。



注意

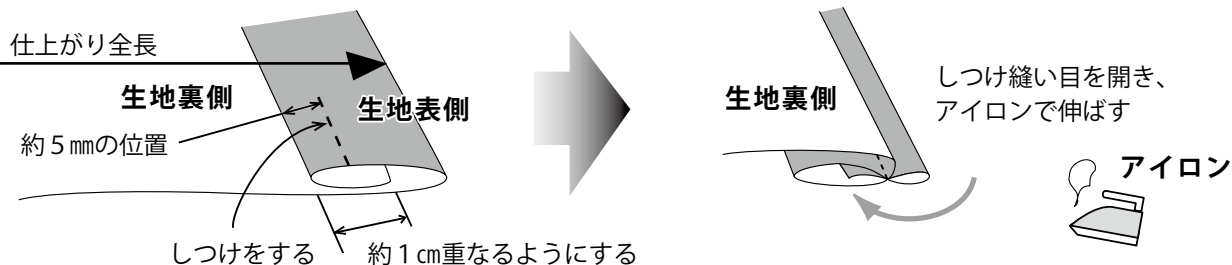


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

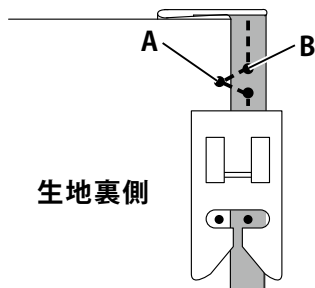
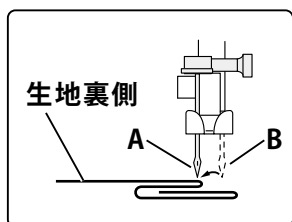


・縫い模様を選択するときは、針を上げる。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

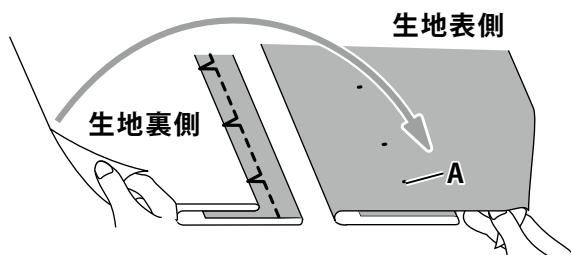
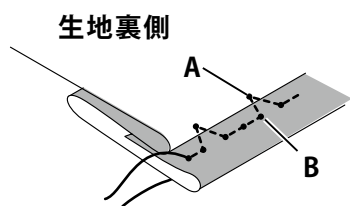
模様表示



【1】生地を図のように折り、しつけをします。



【2】『はずみ車』を手前に回し、針を左側でゆっくり下げます。
生地の折り山（A）にわずかに針がかかるように生地的位置を合わせて縫います。
（針がかかる量が少ないほど、表面に目立ちにくくなります。
また、生地の折り山に針がかからないと仕上がりが目飛びをします）



【3】生地を返し、しつけ糸を抜きます。

ボタンホール縫い

ボタンの大きさにあったボタンホールを縫うことができます。



注意



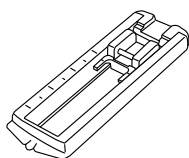
・押え交換時、電源スイッチを『切』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

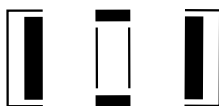
・縫い損じを防ぐため、製品に縫う前に必ず別の生地でボタンホールを作り、
ボタンが通るかご確認ください。

押え



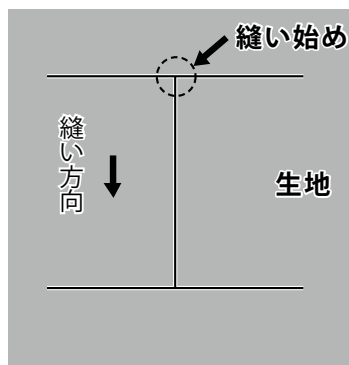
ボタンホール押え

模様表示



ポイント！

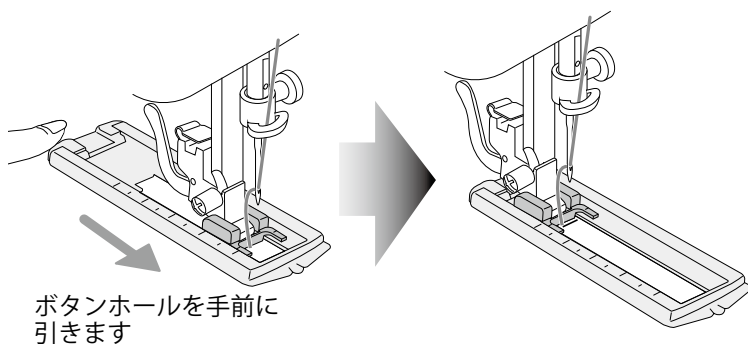
伸縮性の生地や薄い生地は不織布（芯地）を裏に貼るとよりきれいに仕上がります。



【1】 ボタンの大きさと厚さ、生地の種類に応じてボタンの
穴の長さを決め、ボタンホールを作る生地に印を
付けます。

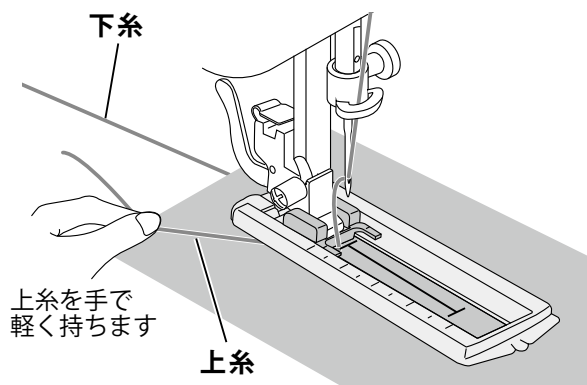
※ 生地に印を付けておくと、縫う方向を間違えません。

ボタンの穴の長さ = ボタンの直径 + ボタンの厚み



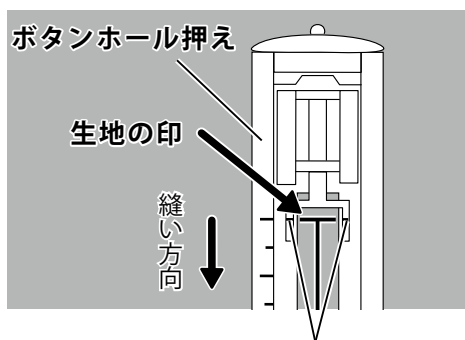
【2】 『押え』を『ボタンホール押え』に交換し、
『ボタンホール押え』の枠を手前に引いておきます。
(P10 / 押えの取り外しかた・取り付けかたを参照
してください)

※ 『ボタンホール押え』は『押え上げレバー』を
2 段目まで上げて交換してください。
(P10 / 押え上げレバーを参照してください)



【3】 上糸を『ボタンホール押え』の下に通します。

※ 上糸と下糸は『押え』の後方に出してください。



ボタンホール押えの赤い線

【4】 生地につけたボタンホールの印と

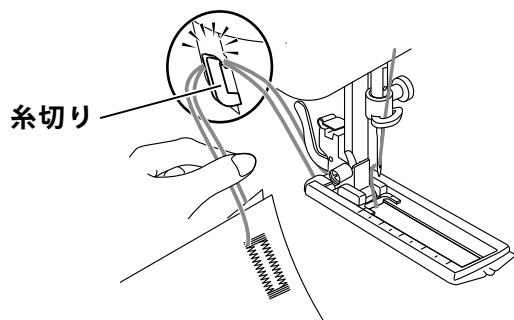
『ボタンホール押えの赤い線』を合わせて、生地を置きます。
『押え上げレバー』で『ボタンホール押え』を下げます。

※ 生地が斜めになっていると、ボタンホールが生地に対して斜めに作られますのでご注意ください。

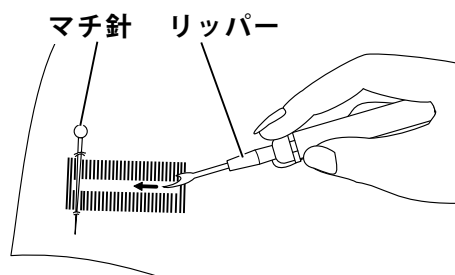
【5】 以下の手順で縫い始めます。

1. 『模様選択ダイヤル』を回して、『ボタンホール模様 1』を選択し、上糸を軽く持ち、ミシンを動かして縫い始めます。縫い始めから縫い終わりまで縫い、ミシンを止めて持っている上糸を切ります。
2. 『模様選択ダイヤル』を回して、『ボタンホール模様 2/4』を選択し、ミシンを動かして 5～6 針をかんぬき止めをしてミシンを止めます。
3. 『模様選択ダイヤル』を回して、『ボタンホール模様 3』を選択し、ミシンを動かして縫い終わりから縫い始めまで縫い、ミシンを止めます。
4. 『模様選択ダイヤル』を回して、『ボタンホール模様 2/4』を選択し、ミシンを動かして 5～6 針をかんぬき止めをしてミシンを止めます。

	1	2	3	4
模様				
縫いかた	縫い始め 縫い終わり	5～6 針を かんぬき止め	縫い始め 縫い終わり	5～6 針を かんぬき止め



【6】 『押え上げレバー』で『ボタンホール押え』を上げ、糸切りで糸を切ります。



注意



・リッパーの先端に手をそえない。
ケガをする恐れがあります。

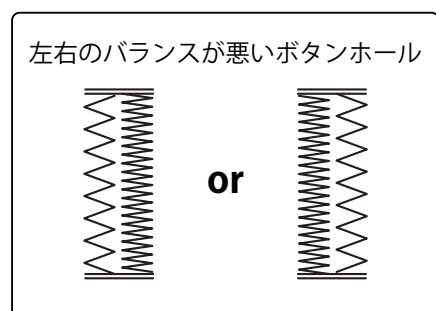
【7】 ボタンホールの穴に市販の『リッパー』を刺し、押しながらボタン穴を切り開きます。

※ マチ針をかんぬき部分に刺しておくと、ボタンホールの切り開き過ぎを防げます。

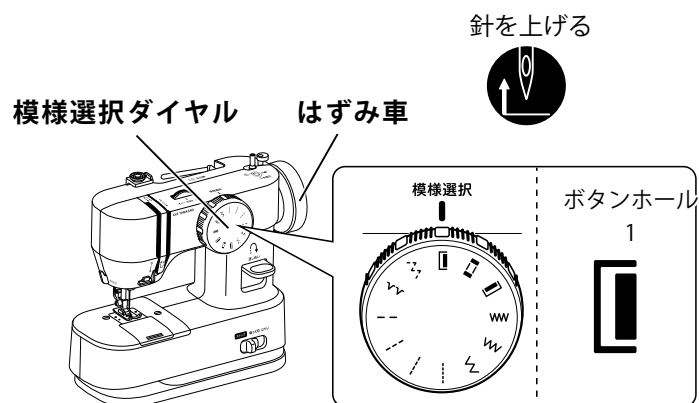
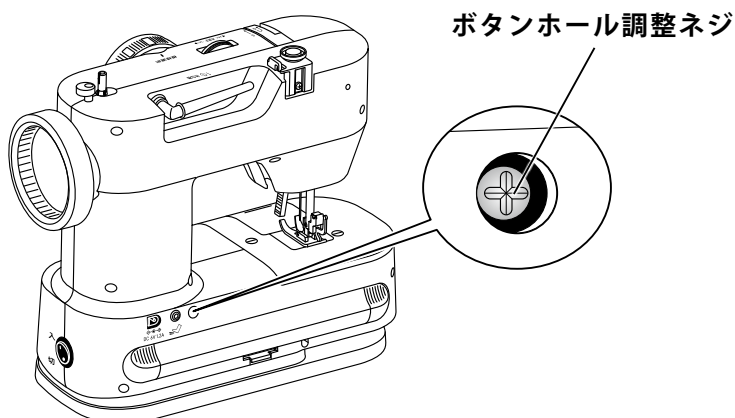
※ 付属品に『リッパー』、『マチ針』は付属しておりません。

● ボタンホールの左右縫い目のバランス調整

条件によって（生地の種類など）ボタンホールの左右縫い目の長さに違いが現れることがあります。
このような場合には、『ボタンホール調整ネジ』を調整することで、ボタンホールの左右縫い目の密度を調整することができます。



<ミシン背面側>



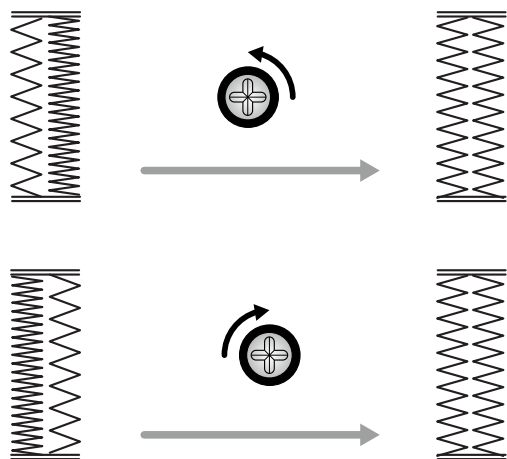
- 【1】『はずみ車』を手前に回し、針を上げます。
- 【2】『模様選択ダイヤル』を図のボタンホールの模様に合わせます。

※ 他の模様を選択すると『ボタンホール調整ネジ』が正しい位置になりません。

正しい位置



正しくない位置



- 【3】 ボタンホールの右側の縫い目が細かすぎる場合はミシンの背面の『ボタンホール調整ネジ』を左に回してください。

ボタンホールの右側の縫い目が粗すぎる場合はミシンの背面の『ボタンホール調整ネジ』を右に回してください。

※ 『ボタンホール調整ネジ』を一度に 90° 程回して、試し縫いをして様子を見ながら調整してください。
『ボタンホール調整ネジ』を回し過ぎると、『ボタンホール調整ネジ』が外れてしまいます。

※ #2（先端が尖っていないタイプ）相当のプラスドライバーを使用してください。
（#2 のプラスドライバーは付属しておりません）

お手入れ

● 針の交換

注意



・電源スイッチを『切』にしてから
ACアダプターをコンセントから抜くまたは電池を外す。
突然動くとケガをする恐れがあります。



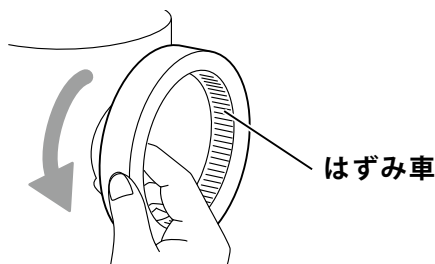
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



- ・針止めネジはしっかり締めます。
ミシン動作中に針が落下して、ケガをする恐れがあります。
- ・針は平らな面を後ろ向きに付ける。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。また、縫い目ができず縫えません。
- ・針を交換するときは専用の付属品で交換する。
縫っているときに針が抜け、ケガをする恐れがあります。

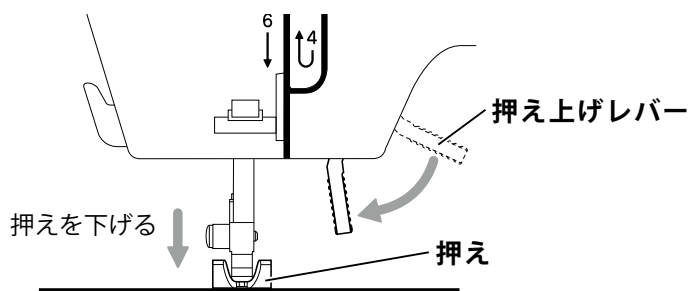
< ミシン右側面 >

針を上げる

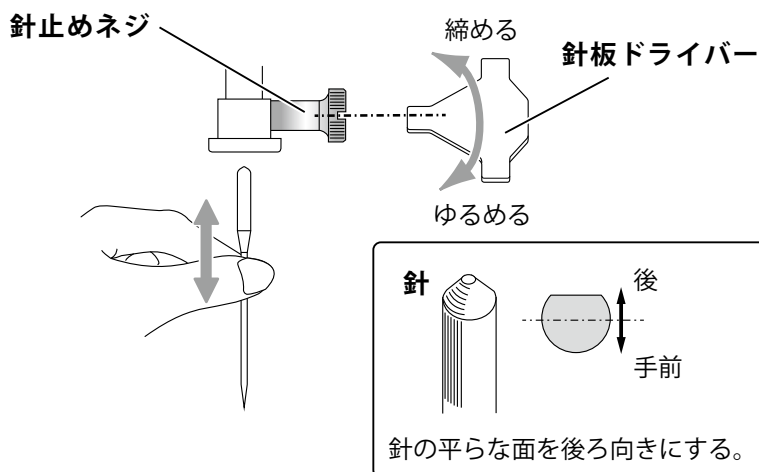


【1】『はずみ車』を手前に回し、針を上げます。

< ミシン正面図 >



【2】『押え 上げレバー』で『押え』を下げます。



【3】付属の『針板ドライバー』を使用し、針を交換します。

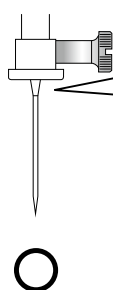
● 針の外しかた

取り付けられている針を持ち、
『針止めネジ』をゆるめ、
針を下に引き抜きます。

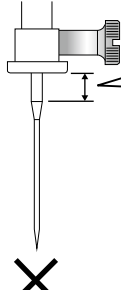
● 針の取り付けかた

新しい針の平らな面を自分から
見えないように持ち、
奥まで差し込み、『針止めネジ』を
しっかり締めます。

※ 針を取り付けるときは、奥まで差し込んでください。



針の平らな部分が見えなくなるまで
差します。



針の平らな部分が見えて
いると、ミシンの故障の
原因になります。

●正しい針の選びかた



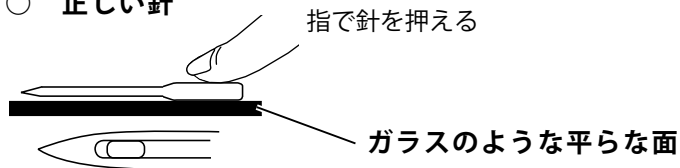
注意



・曲がった針は使用しないでください。
ケガをする恐れまたは故障の原因になります。

※ 家庭用ミシン針 (HA×1) をご使用ください。

○ 正しい針



※ ガラスのような平らな面に針を置き、針の曲がり具合を確認してください。

※ 目飛び、糸絡みがする場合、針に不具合がある場合があります。一度針を交換してください。

※ 不良の針を使い続けると、きれいに縫えないばかりでなく、針板やカマに傷を付けます。新しい針に交換してください。

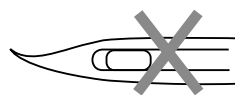
× 悪い針



全体に曲がっている



先端のつぶれ



先端の曲がり

●カマのそうじ

カマには糸くずやほこりがたまりやすく、縫製不良になる場合があります。
定期的に掃除してください。

■ 針板、ボビンケースの外しかた



注意

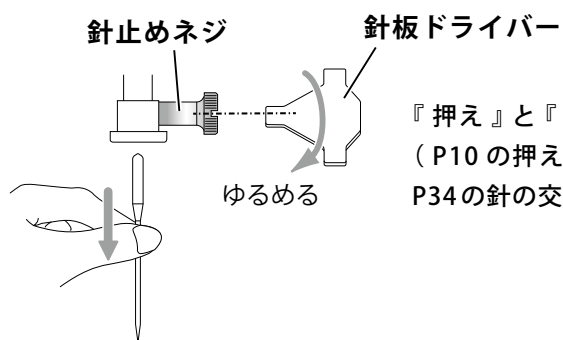
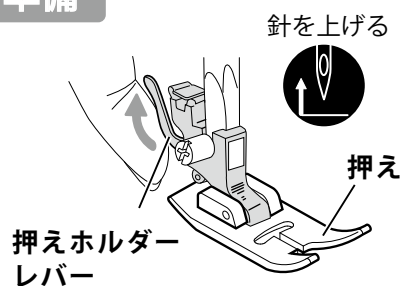


・電源スイッチを『切』にしてから
AC アダプターをコンセントから抜くまたは
電池を外す。
突然動くとケガをする恐れがあります。

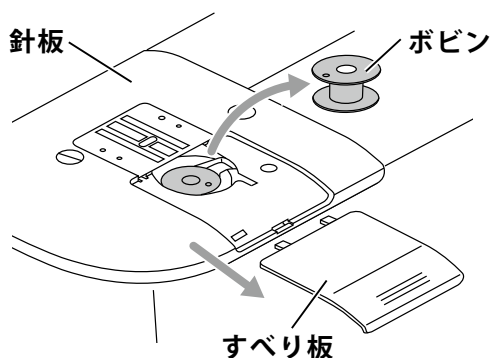


・説明書に記載してある以外の
修理、改造、分解は禁止。
ケガをする恐れがあります。

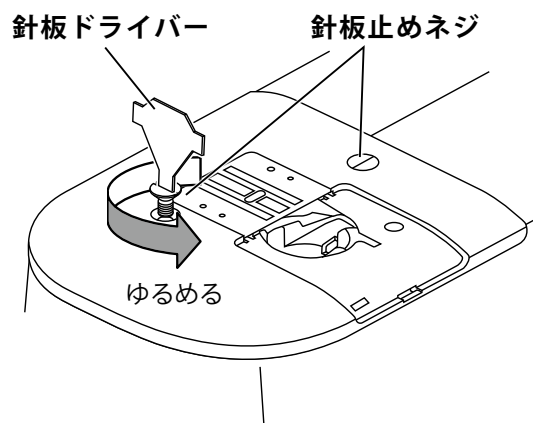
準備



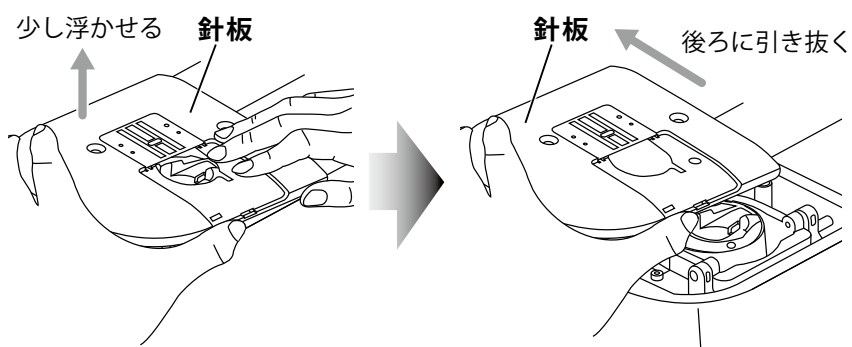
『押え』と『針』を外します。
(P10 の押えの外しかた
P34 の針の交換をご参照ください)



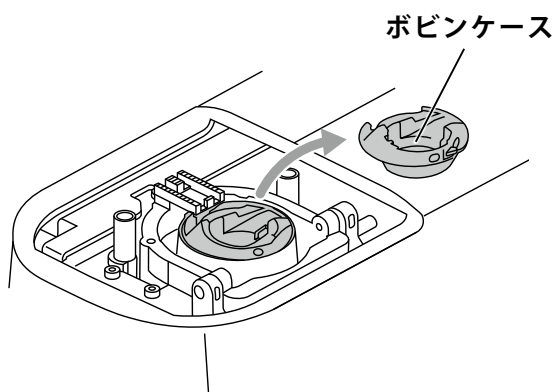
【1】『すべり板』と『ボビン』を外します。



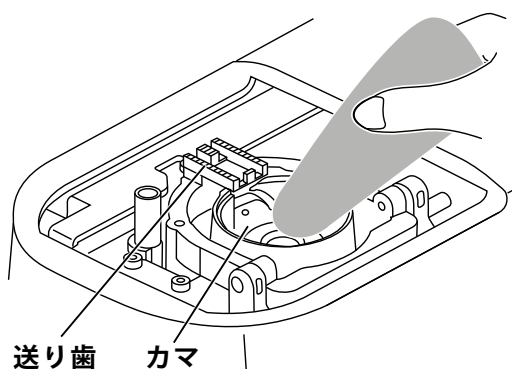
- 【2】 付属の『針板ドライバー』で『針板止めネジ』を2ヶ所外します。



- 【3】 『針板』の後方を少し浮かせ浮かしたまま後ろに引き抜きます。

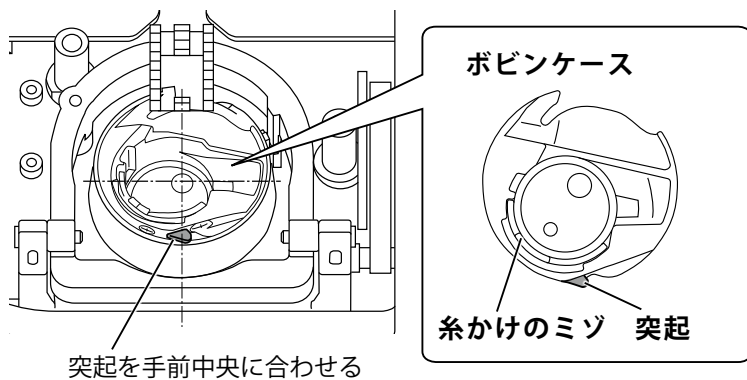


- 【4】 『ボビンケース』を外します。



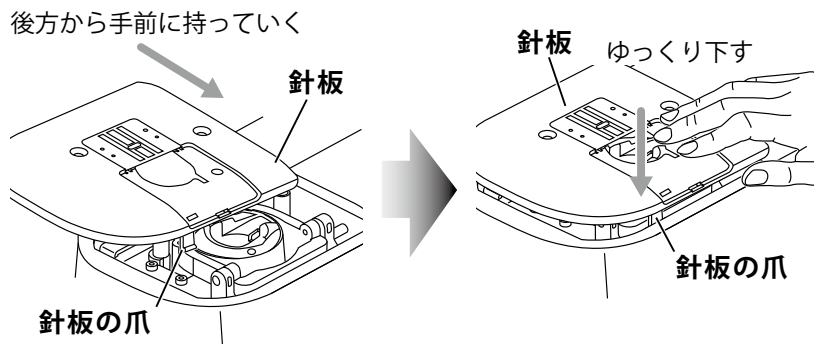
- 【5】 布などで『ボビンケース』や『カマ』『送り歯』の糸くずやホコリを取り除きます。
※『カマ』の先端は尖っているのでケガに注意してください。

■ ボビンケース、針板の付けかた



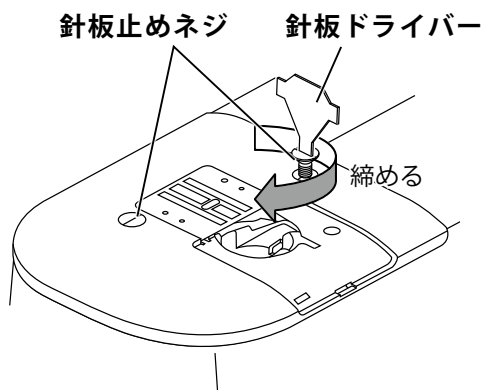
- 【1】『ボビンケースの突起』を手前中央に合わせます。

※『ボビンケースの突起』の位置がずれると『針板』が正常に締まらないことや『はずみ車』を回した時に回らないことがあります。

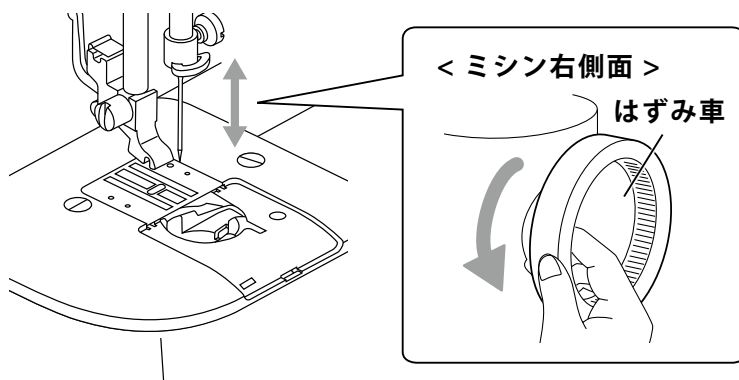


- 【2】『針板』の後方から手前に持っていく
ゆっくり下して『針板』の裏の爪を
ミシン本体のカバーに引っかけるように
載せます。

※『ボビンケース』が傾いていないことを
確認してください。



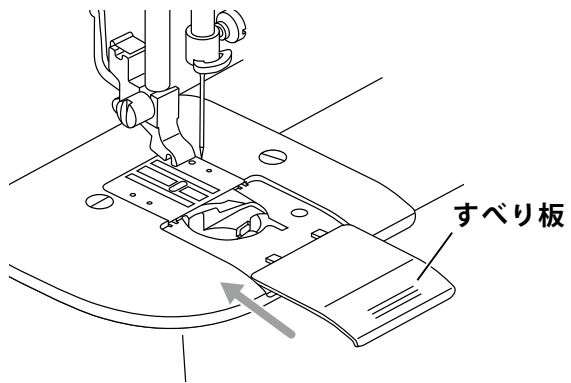
- 【3】付属の『針板ドライバー』で
『針板止めネジ』を2ヶ所
締め、針板を固定します。



- 【4】針を取り付け、『はずみ車』を
手前に回し、針を上下させ
スムーズに動くか確認します。

※針の取り付けかたはP34の針の交換を
ご参照ください。

※『はずみ車』を手前に回して、スムーズに
動かないときは『針』や『針板止めネジ』
『針板』を取り外し『ボビンケース』
の位置を合わせ直してください。



【5】『ボビン』や『すべり板』

『押え』を取り付けます。

※ 押えの取り付けかたは P10 の押えの
取り外しかた・取り付けかたを
ご参照ください。

困ったときは

不具合	原因	処理	参照 ページ
ミシンが動かない	AC アダプターの差し込みが不十分。	AC アダプターをしっかりと差し込む。	5・7
	電池を入れる向きが異なる。	電池の向きを正しく入れ直す。	6
縫えない ミシンが途中で止まる 縫っている途中でランプが消える	生地が厚く、針が刺さりにくい。	はずみ車を手でゆっくり回して縫い進める。	28~29
	電池の容量が減っている。	新しい電池に交換する。	6
	天びんから糸が抜けている。	糸を引っ張りながら縫い始める。	20~22
	曲がった針を使用している。	新しい針に交換する。	34~35
	正規のボビンを使用していない。	正規のボビン（樹脂）を使用する。	4・40
	糸が絡んでいる。	絡んだ糸を切る。 取り除けないときは針板を外し、絡んだ糸を取り除く。	23 35~38
	針穴に生地がくい込んでいる。	くい込んだ生地を取り除く。 取り除けないときは針板を外し、絡んだ糸や生地を取り除く。	35~38
生地が送らない	縫い目の長さが生地に合っていない。	縫い模様を選び直す。	9
	手で生地を押さえ過ぎている。	手で生地を軽くそえるだけにする。	20~22
	押えが下がっていない。	押え上げレバーを下げる。	10
針が折れる	生地を無理に引っ張っている。	手で生地を軽くそえるだけにする。	20~22
	生地に対して針が細過ぎる。	生地に合った針を使用する。	26
	針の取り付けかたが間違っている。	正しく針を取り付ける。	34~35
	上糸の調子が強過ぎる。	上糸調節ダイヤルで糸調子を弱める。	25
上糸が切れる	上糸のかけかたが間違っている。	上糸を正しくかけ直す。	15~18
	上糸の調子が強過ぎる。	上糸調節ダイヤルで糸調子を弱める。	25
	押えが下がっていない。	押え上げレバーを下げる。	10
	針が曲がっている。針先が欠けている。	新しい針に交換する。	34~35
	糸に結び目やコブがある。	糸の結び目やコブの部分を取り除く。	—
	生地に対して糸が細過ぎる。	生地に合った糸を使用する。	26
	正規のボビンを使用していない。	正規のボビン（樹脂）を使用する。	4・40
	糸が劣化している。 （絹糸や綿糸は劣化しやすい）	別の糸（スパン糸）に取り替える。	—

不具合	原因	処理	参照 ページ
下糸が切れる ボビンの糸が 引き出せない	下糸のかけかたが間違っている。	下糸を正しくかけ直す。	14
	ボビンケース周辺に糸くずや ゴミが溜まっている。	針板を外し、カマや送り歯を掃除する。	35~38
	ボビンに糸が正しく巻かれていない。	糸を正しく巻き直す。	12~13
	正規のボビンを使用していない。	正規のボビン（樹脂）を使用する。	4・40
	糸が劣化している。 （絹糸や綿糸は劣化しやすい）	別の糸（スパン糸）に取り替える。	—
縫い目がとぶ	上糸のかけかたが間違っている。	上糸を正しくかけ直す。	15~18
	針の取り付けかたが間違っている。	正しく針を取り付ける。	34~35
	針が曲がっている。針先が欠けている。	新しい針に交換する。	34~35
	生地に対して針や糸が合っていない。	生地にあった針と糸を使用する。	26
生地がシワに なる	上糸の調子が強過ぎる。	上糸調節ダイヤルで糸調子を弱める。	25
	上糸、下糸のかけかたが間違っている。	上糸、下糸を正しくかけ直す。	14~18
	針先が欠けている。	新しい針に交換する。	34~35
	生地に対して針や糸が合っていない。	生地にあった針と糸を使用する。	26
生地の裏が タオル状になる	上糸のかけかたが間違っている。	上糸を正しくかけ直す。	15~18
	上糸の調子が弱過ぎる。	上糸調節ダイヤルで糸調子を強める。	25
	押えが下がっていない。	押え上げレバーを下げる。	10
回転が重い 音が大きい	ボビンケース周辺に糸くずや ゴミが溜まっている。	針板を外し、カマや送り歯を掃除する。	35~38

※ これらの現象、原因以外の不具合はミシン内部の調整や部品の磨耗による交換または電気系統の故障が原因となっている可能性があります。ご購入店または弊社サービスセンター（P42 参照）までご相談ください。

仕様

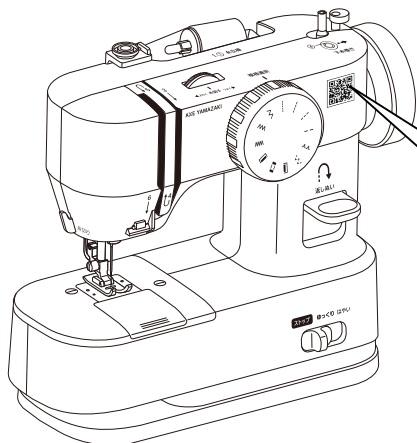
型式：YS-10	サイズ：W30.9 × H27.4 × D13.9cm	最大送り量：3.8mm	最大振り幅：4mm
重量：2.4kg	かまタイプ：水平全回転がま	返し縫い送り量：2.2mm	使用針：家庭用ミシン針（HA × 1）
ボビン：家庭用プラスチックボビン（高さ 11.5mm × 直径 20.5mm）		定格消費電力：9W	回転速度：100 ～ 150rpm
適用電源	AC アダプター	入力：AC100-240V 50/60Hz 0.3A 出力：DC6V 1.2A	
	電池	単 3 形アルカリ電池 × 4 本	

QRコードシール



ミシンの使いかたを動画でご紹介しております。
操作説明をはじめ、上糸のかけかた・下糸のかけかたや注意すべき重要箇所を
分かりやすく説明しています。アプリによっては読み込めない場合がございます。
その場合、下記の URL を直接入力して下さい。

URL : <http://www.axeyamazaki.co.jp/products/ys-10/>



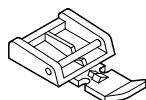
* 付属の『QRコードシール』を
見やすい所に貼ってご使用下さい。

* 糸かけの妨げになる所には
貼らないでください。

純正部品のご案内

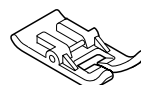
このミシンは一般的な家庭用ミシン部品が使用可能ですが、市販部品にはこのミシンに適合しない
部品もございますので、お求めのときは純正部品のご購入をお勧め致します。

● ファスナー付け押え



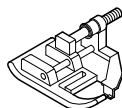
ファスナーを取り付けるときに便利です。

● スムース押え



滑りの悪い生地を使用すると縫い目がきれいになります。

● まつり縫い押え



スカートやズボンの裾上げをするときに便利です。

● お問い合わせ先

純正部品のご購入については、ご購入店または弊社サービスセンターにお問い合わせください。
インターネットでのご購入もいただけます。詳しくは下記の URL をご覧ください。

URL : <https://axeyamazaki.com/>



* お問い合わせのメール
フォームに移動します。

株式会社 アックス ヤマザキ サービスセンター

TEL : 0120-405-851

* 携帯電話からご利用になれます。

E-Mail : info@axeyamazaki.co.jp

平日 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日除く)

〒544-0022 大阪府大阪市生野区舎利寺 3-12-5 株式会社 アックス ヤマザキ
TEL:06-6717-5851 FAX:06-6741-7875 平日 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日除く)

修理サービス要領

●修理サービスのご相談

- 【1】 このマシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。
内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 【2】 修理サービスは無料保証期間内及び期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。
- 【3】 修理サービスについてお問い合わせやご不審のある場合は、ご購入店またはお客様相談係にお申し付けください。

●修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品及び縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常7年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

- 【1】 取扱説明書に基づいて、正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスを致します。
ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
イ. 保存上の不備または落下による破損、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
ロ. 浸水、冠水、火災、天災地変により不調、故障または損傷したとき。
ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
ニ. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
- 【2】 長期間にわたってご使用されたマシンの精度の劣化は修理によって元どおりに修復できないことがあります。
- 【3】 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費及び技術料金の合計額となります。

お問い合わせまたはご相談先

マシンについてのお問い合わせ、ご相談はご購入店または弊社サービスセンターでも承っておりますので、ご遠慮なくお申し付けください。



＊ お問い合わせのメール
フォームに移動します。

株式会社 アックス アマザキ サービスセンター

TEL : 0120-405-851

＊ 携帯電話からもご利用になれます。

E-Mail : info@axeyamazaki.co.jp

平日 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日除く)

〒544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺 3-12-5 株式会社 アックス アマザキ
TEL:06-6717-5851 FAX:06-6741-7875 平日 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日除く)

- ＊ 住所及び電話番号は都合により変更することがありますのでご了承ください。
- ＊ 純正部品のご購入については、ご購入店または弊社サービスセンターにお問い合わせください。
- ＊ ご購入頂きましたマシンは、上記の専門工場で点検修理等のサービスを致します。
- ＊ サービスには有償修理点検と無償修理点検があります。マシン送付前に必ず弊社サービスセンターにお問合せください。
- ＊ マシンを工場へ送付されるときは、必ずこのマシンの箱と緩衝材(クッション)をご利用ください。
- ＊ 運送時、マシンが揺れてマシン本体が破損してしまう場合があるので梱包するとき注意してください。

ミシン保証書

型 式	YS-10 シリーズ		機 械 番 号		ご購入後には ※印欄への記入の 有無をご確認下さい。 記入がないときは ご購入日、または お届け日が証明できる 伝票等を添付して ください。 本書は再発行 致しません。 紛失しないように 大切に保管して下さい。
※ お買い上げ日	年 月 日	保 証 期 間	お買い上げ日より本体1 年		
※ お 客 様	ご住所	〒 TEL 様方			
	フリガナ ご芳名			様	
※ 販 売 店	住 所 店 名	〒 TEL			

無料修理保証に付いて

1. 無料修理保証期間（ご購入の日から1ヵ年間）内に故障が発生した場合は、無料で故障箇所の修理調整または故障部品の交換を致します。
2. 無料修理保証は表記のミシン本体のみとし、針及び電球などの消耗部品は除きます。
3. 無料修理保証をお受けいただくときは、この保証書をご提示してください。
4. 保証機種がコンパクトミシンまたは軽量可搬のポータブルミシンなどであるときは、そのミシンを購入店へご持参、またはご相談ください。

無料修理保証が受けられない場合

次のような場合には、保証期間内でも保証の対象とはなりません。

1. 「取扱説明書」に記載してある使用方法または保存方法と異なる方法によったため不調、故障または損傷したとき。
2. 落下による破損、浸水、冠水、火災、天災地変により不調、故障または損傷したとき。
3. ご購入店または当社で指定した販売店、サービス店以外で修理分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
4. 職業用など過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
5. 特別なご依頼により点検、精密検査または分解及び掃除などをしたとき。
6. この保証書のご提示がなかったとき。
7. この保証書に購入年月日、ご購入店名の記載または捺印がなかったとき。
8. この保証書の字句の訂正または書き換えをしたとき。
9. この保証書は日本国内に限り有効と致します。 This warranty is valid only in Japan.

有償修理について

上記の1. ～ 9. に該当する場合、その他有料で修理するときの費用は、別に定める必要部品代及び技術料の合計額と致します。

お問い合わせまたはご相談先

この保証書に記載してありますご購入店または、取扱説明書に記載された弊社「サービスセンター」にお申し付けください。

お客様へのお願い

1. この保証書は、本書によって明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理について、ご不明の場合はご購入店または弊社「サービスセンター」にお問い合わせください。
2. 「取扱説明書」の「修理サービス要領」をよくお読みください。
3. この保証書は紛失されても再発行致しませんので、大切に保管してください。

AXE YAMAZAKI 【保証責任者】 株式会社 アックスヤマザキ

〒 544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺 3-12-5
TEL:06-6717-5851